

轉法輪法解

李洪志

本書『法解』は法を伝えた初期の時、新しい学習者を対象に解答した比較的簡単なものであり、次元が限られているため、ただ新しい学習者の参考用とします。

李洪志

一九九七年七月十六日

目次

1. 北京『轉法輪』発売記念イベントでの説法
2. 長春での説法 質疑応答
3. 鄭州での説法 質疑応答

(以下、翻訳中)

4. 濟南での説法 質疑応答
5. 延吉での説法 質疑応答
6. 広州での説法 質疑応答

北京『轉法輪』発売記念イベントでの説法

李洪志

一九九五年一月四日

まずは皆さん新年おめでとうございます！

在席の皆さんの中に古くからの学習者もいれば、講習会に参加したことのない人もいますが、いずれも法輪大法についてある程度の認識を持っています。先ほどスタッフは、法輪大法の一九九四年度の総括を行い、存在する問題についても大まかに話しました。不足するところは、今後の仕事の中で、大法を広めながら改善しなければなりません。功法全体の発展の形勢から見ると、急速に広まる様相を呈しています。影響もますます大きくなり、急激に上昇しており、広まる速度も非常に速いものです。私は、功を伝え始めてから現在まで、ただ二年余りしか経っていません。しかも初めのころは病氣治療、健康保持という低い次元の気功として伝え始めたのです。それは皆さんに認識の過程を与えるためです。最初るとき、私が出てきた目的はすなわち、高い次元の功を伝え、高い次元に人を導くためだと話しました。本当の高い次元での修煉についてはまだ誰も説いていません。もちろん、初めの頃は私たちも気功という低い次元での形で広めていました。その目的は皆さんに認識の過程を与えるためです。特にこの一年、私はほぼ法を説いてきました。ですから、学習者はみな知っていますが、私は高い次元のことについて説いており、ほかの人が語ることでできないことを話し、本当の修煉、如何に修煉すべきかについて言及したのです。と言うのも、修煉方法も沢山あって、長きにわたって普及していますが、どのようにレベルを高めるかという問題に直面しています。いつも従来理論に留まったままでもいけません。今まで、多くの方が煉功に当って心性の修煉および徳を重んじていないため、様々な問題を起こしました。

私たちは佛家大法ですから、佛家の理についてお話します。釈迦牟尼佛は、末法時期には魔が出現し、常人社会をかき乱すと話したことがあります。本当のところ、釈迦牟尼はお寺に魔が現れて彼の法を破壊すると言っているだけではなく、この意味だけではなく、普遍的でもっと大きな理を説いたのです。皆さん考えてみてください。現在のこの時期、人間の道德水準はここまで退廃してしまい、人と人の間のトラブルはここまで激化してしまい、利益に目が暗み、金のためならなんでもやりかねないという具合に、社会の風紀は日増しに悪化しています。現在、人と人との人間関係も非常に緊張しています。しかも、道德水準も腐敗・墮落し、同性愛、性の開放、麻薬中

毒、マフィアなど、ひどく乱れており、何でもあり、国内外は全て同じです。中国の年配の方、年寄りの方は、まだ少し道徳観念があり、この社会を維持しています。西洋にはマナーが重んじられているため、表面的なマナーは何とか保たれています。しかしながら若い世代は、特に中国人ですが、まったく道徳を重んじていません。皆さん考えてみてください、このまま続けば危険ではありませんか？

多くの大師、多くの預言家も人類に劫難や磨難がやってくると言いましたが、彼らの話をさておいて、皆さん考えてみてください。もしもこの社会はこのまいくと、危険ではありませんか？ 物事は極まれば、必ず反転します。このまま行くと、これからの人はどうなってしまうのでしょうか？ 私が伝えるこの大法は、高い次元では人の修煉を指導することができ、低い次元では人のあるべき道を指導することができます。間違いなくそういった働きがあります。ですから多くの学習者は学びたいと思い、奮って学んでおり、とても素晴らしいと感じています。と言うのも、本当の法が伝えられれば、人を済度することができるからです。しかも、学習者は深い感銘を受けています。単に理性からだけではなく、身体にも、素質にも、道徳水準にも、大きな変化が起きたから、このように大きな影響が生じたのです。この大法は他の一般的な功法と違い、私たちは本当に高い次元へ人を導いています。

現在、多くの工場の従業員は大法を学んだ後、工場の風紀まで一新しました。人々は人間がどうあるべきか、どのように徳を重んじるかを分かるようになったため、工場の生産向上に結びついたので。人の心が全て善に向かい、一生懸命働いています。良い修煉者になりたいと思えば、基本から始めなければならず、まずは良い人になるのです。良い人はどこにいても良い人で、上司から与えられた仕事をきちんと完成させなければなりません。それは社会に尽すことであり、必ずこのような促進作用があります。それというのも、私は高い次元へ功を伝え、高い次元での法を伝えているため、人を高い次元へ導くことができ、更なる高い境地まで到達させることができるからです。

ですから、高い次元まで修煉することを望んでいなくても、またはこの理を常人がいったん知ってしまったら、人はこの理に基づいて行動すべきことに気づくのです。というのも、人類の道徳水準がどれほど危険なところまで滑り落ちても、この宇宙の理は変わらないからです。この宇宙の理が不変であるために、人類の道徳が滑落したことが分かるのです。この宇宙の理まで変わってしまったら、人類の道徳が滑落したことに誰も気づかないのです。人類の道徳がここまで滑落したと話しましたが、多くの方はまだ理解できません。特に講習会に参加している人は、往々にして最初の二日間で、私の説いていることをあまり理解することができませんが、講習会が終わり、常人社会を振り返ってみたときに、全て理解できるようになりました。この社会にい

れば、感じることができず、自分はまだ人よりましだと感じています。考えが向上して、振り返って見たとき、はじめてその危険性が分かるのです。なぜならば、大法にはこのような力があり、そういった働きがあるからです。ここまで至っても、人にはまだ善なる心があり、佛性もあるので、話すとすぐ理解できるのです。多くの人が善に向かおうとし、学びたいと思いますし、もちろん多くの根基の良い人が更なる高い次元へ修煉しようとしているので、この功法が広まる過程にこういった趨勢が形成されたのです。

数年前、一部の人が偏見から気功に反対し、完全に否定する態度を取っているため、気功は停滞期に入りました。二年前から、またブームになりました。以前ほどの盛況はありませんでしたが、それもかなりの人気ぶりでした。しかし、最近再び人気が落ちてきたようです。このようになったのは、誰かが反対したり、批判したりしたからではなく、あるいは行政手段でそうしたのでもなく、人々が冷静に考えるようになり、どれが本物なのか、どれが偽者なのか、どれが人騙しで害があるものなのか、人々はこれらのことを考え、冷静に対応できるようになったから、この状況になったのです。ですから、多くの偽気功師は人気がなく、金を巻き上げるための講習会も開けなくなりました。私が多くのところへ功を伝えに行ったとき、現地の気功科学研究会や人体科学研究会の幹部は「各地で気功講習会を開催しても、人が集まらなくて、気功は全体的に下降気味ですが、法輪大法だけは直線的に伸びており、しかも非常に速いスピードで発展している」と言いました。もちろん、これはほかの人が言ったことですが、私はその言葉を借りているだけです。将来、さらに速く、さらに迅速に発展していくかもしれません。このことは私が出山前から、すでに分かっています。将来どういう状態になっていくのかについても私にはっきり分かっています。

総じて、法輪大法は法を伝える過程の中で、確かに学習者に対して、社会に対して責任を持っているからこそ、このような良い結果を得られました。さきほど、私は法輪大法の発展の形勢を簡単に話しました。在席の中で多くの新しい学習者もいますが、十分には理解できていないかもしれません。多くの学習者は法輪大法の情況と講法も聞きたいと思っています。私もここにいる新しい学習者に対して、この時間を利用して法輪大法について紹介し、併せて、皆さんに修煉の中の法理についてもお話してみようと思います。

皆さんもご存知の通り、練功は病気治療と健康保持という次元において、各流派の良いところを取り入れるということを説いています。誰もが練功して、体を鍛えて病気を治したいと思っているからです。良いところを取り入れればと思い、どの流派のものであっても病気が治れば良いと思っています。病気が治って、また常人になり、これは何の問題もありません。私は異なる次元には異なる法があり、異なる次元の異

なる法が、異なる次元の修煉者に対して異なる規律と要求があると説きました。常人はとりもなおさず常人という次元の中にいるので、各流派から良いものを取り入れて、健康増進を図り、これは何の問題もありません。実はこの気功は病氣治療、健康保持のためだけのものではなく、もともと修煉なのですが、現代人の考えに合わせて、受け入れられるように、そしていわれのないレッテルを貼られないようにするため、気功という名前を付けられたのです。気功は「文化大革命」の中後期から発展し、最盛期に至りました。そのころ本来の名前では、大きな批判を受けるに違いありません。良いことをし、多くの人々が健康になるよう、病氣治療と健康保持のことを行っても認められません。あの頃、極左思想が横行していたからです。ですから、誰も本来の名前を使わず、気功と言いつつ習わしたのです。当然、気功には流派があり、各流派の修煉方法も同じではないので、様々な気功が現れ、いずれも元の名前を隠しました。気功の名はこのように広まったのです。

気功は修煉のためのもので、宗教の中の修煉方法も修煉方法の一つです。修煉方法である以上、ただ病氣治療と健康保持のためだけではありません。と言うのも、修煉は高い境地に至るためのものなので、それをもって人の病氣を治療すれば、当然奇跡が顕れます。とはいっても、これほど多くの人が煉功しているのに、なぜ病氣が治らなかつたのでしょうか？ なぜ、煉功している多くの人の功が伸びないのでしょうか？ それは気功が修煉だからです。修煉は常人の体操とは違い、常人の技能や、常人の体育活動でもなく、超常のものなのです。超常のものである以上、超常の方法で健康を保ち、高い境地に到達しようと思えば、この超常のものはある超常の理によって指導されるのではありませんか？ とすれば、この超常の理は実際、指導と制約の作用を持ち、言い換えれば常人の次元を超えるものになり、あなたは超常の理に基づいて行動しなければなりません。常人の次元のものは、働けば、またはお金を払えば手に入れることができます。または多く努力すれば、常人の技能のように得ることができます。しかし、修煉はそうはいかず、人の心を修めなければなりません。あなたの心を修煉してはじめて、向上することができます。必ず徳を重んじ、心性を修めてはじめて、向上することができるのです。

以前私はなぜ、人は心性を重んじ、徳を修めれば向上できるのかについて話しました。それはこの宇宙にある理が制約しているからです。どういう理なのでしょう？ すなわち、私が説いた、宇宙にある特性が存在しているということです。あたかも私たち人間のように、人間の体のように、肉体のほかに、他の生命が存在してはじめて、完全な人間を構成しているのです。身体だけあれば、ただの肉の塊でしかありません。性格、気質、特性、そして元神があつてはじめて、一人の完全な人間、独立した、自我と個性を持った人間になるのです。この宇宙も同じです。私たちが現在認識できる

物質的な存在、すなわち星、銀河系、恒星、彗星、惑星など物質として認識されているもののほかに、ある特性が存在しており、精神的な存在とも言えます。概括して言うと、この法は下に行けば、とても大きくなり、内容もたくさんあります。ただし、高い次元では極めて簡単で、三文字でこの特性を概括することができます。これが真、善、忍で、真善美ではなく真、善、忍なのです。

この特性は当然これほど簡単なものではなく、多くのものに分化し、次元が低くなるほど、複雑になり、厩大で煩雑になります。高い次元では三文字で概括され、すなわち「真、善、忍」なのです。空気の中の全ての微粒子、全ての物質の最もミクロな粒子、土、石、鉄、木のかげら、プラスチックなどあらゆる物質、そして空気にもこの特性が存在するのです。常人はその存在を感じられませんが、常人は常人という次元にあるので、感じることはできません。ですから、この常人という次元を抜け出そうとすれば、その存在を感じることはできます。言い換えれば、超常の方法で病気を治そうとしても、その要求に従わず、その超常の状態での要求を満たさなければ、病気を治すことはできません。功を伸ばそうと思っても、その超常の理で自らを要求しなければ、つまり常人という次元を超える理で要求しなければ、永遠に功を伸ばすことができません。

では、なぜ一部の道德水準の良くない人たちでも、功を持っているのでしょうか？一つは、その人自身の根基がもたらすもので、道德水準が非常に低いため、自分の根基を消耗しているのです。消耗しきってしまえば、何も残りません。それまで少しは残っています。もう一つは、憑き物がある人もいます。魔です。この魔がある特定の時期、ある特定された低い状態で存在することは許されており、存在の目的があるのです。魔がなければ人間に病もなく、難もありません。人間には難がなければならず、病もなければなりません。なぜなら、人間自身が作ったものだからです。言い方を変えれば、その魔も人間自身が作ったものです。以前、人を騙したり、悪事を働いたり、殺生をしたりしたことがあれば、それを返す必要があり、返さなければならぬのです。この宇宙に真、善、忍から派生した「失わなければ得られず」という理があり、得たら失わなければならず、借りは返さなければならぬのです。自ら失わなければ、強制的に失わされることとなります。この理が存在しているため、磨難があるのです。

今、私は真、善、忍について説きました。佛家の修煉は、この真、善、忍の善に重点を置き悟るものですが、真もあり、忍もありますが、善に重きを置いて修煉しているのです。善を修めれば慈悲心が生じます。慈悲心が生じれば、誰もが苦しんでいるのを見て、衆生をあまねく済度するという願望が起こります。この法は裾を広げればとても大きいもので、衆生をあまねく済度するために、多くの人に伝わらなければな

らず、このように八万四千の法門が生まれました。道家は真に重点を置き悟るもので、主に真を修めますが、善も、忍もあり、主に真に重きを置いています。ですから、道家は本当の事を言い、嘘偽りのない事を行い、真人になり、真を修め性を養い、返本帰真して最後に真人になります。真に重点を置き修めています。真に重点を置いて修めているので、衆生をあまねく済度するという願望を持たず、道家では弟子一人にだけ本当のものを伝えるのです。道教は近代になって改良された宗教です。それまでの長い間、各期の史前文化には道教はありませんでした。ですから、道家は長い間ずっと、弟子一人に伝えていました。一人に伝えるものですから、わずかな人にしか伝わらなかったのです。道家の法は下の次元で広まったとき、三千六百の法門が生まれました。比べてみれば、佛家は八万四千の法門があり、はるかに多いのです。

真、善、忍は善と悪を量る唯一の基準です。この特性に同化していれば、功を伸ばす事ができますが、同化できなければ、永遠に功は伸びないのです。このことはすでに説明していますが、修煉の人なのか、常人なのか、この理を極めて簡単にまとめることができます。例えば、良い人と悪い人そして修煉者をどのように区別するのでしょうか？ この宇宙の特性に順応できる人が良い人であり、間違いなく良い人です。この宇宙の特性に背離する人は本当の悪人です。ある人は職場で、良くない人だと言われ、一生苦を嘗め、誰からも侮られ、あるいはいじめられているかもしれません。あなたに教えますが、あなたは必ずしも良くない人とは限りません。一方、職場で誉めそやされていますが、あなたは八方美人だからかもしれません。あなたに教えますが、あなたは良い人であるとは限りません。宇宙の理こそ良し悪しを量る唯一の基準なのです。ですから、一人の修煉者としては、この宇宙の特性に同化できれば、得道できる人になり、これほど簡単な理なのです。

人間の功はまったく煉によって得るものではありません。皆気功を練習し、多くの努力を払い、朝早くから夜遅くまで練習しているから、功が伸びると思っていますが、結局のところ少しも伸びません。私のこの話を聞いて、多くの人が「あなたも人に煉功を教えているのではないのですか？ あなたは人に何を教えているのですか？」とびっくりするでしょう。ご存知のように、「修煉」という二つの文字があります。人々はその煉を重んじ、修を重んぜず、修という文字は煉に付けた修辞だと思っています。皆さんに言うておきますが、修が先で煉が後であり、修こそ第一に重要なのです。もしあなたが心性の修煉を重視せず、徳を重んじなければ、あなたには何のエネルギーもないのです！ あなたが心性の修煉を重んじなければ、まったく功などはあるはずがないのです！ 本当のエネルギーは功になります。つまり次元の高さ、功力の強さを決めるものです。人の功の高さとか、または佛教の中で言う果位の高さとか、その功は完全に修によってできたものです。皆さんは僧侶が煉功していないのに、功が

伸びるのはなぜかと思いませんか？ つまり修めているからなのです。

それでは、修と私たちの言っているこの煉とはどんな関係にあるのでしょうか？ 後で私たちが何を煉っているのかについてお話します。修と煉の関係はどのようなものなのでしょうか？ なぜ私たちは修によって功を伸ばすことができるのでしょうか？ 私は心性を修めることに言及していますが、それは人の考えの中の、概念の中の、意識形態の中のことではありませんか？ 私たちが言う煉る功というのは物質的なものではありませんか？ それらのものの中にはどんな関係があるのでしょうか？ 皆さんに教えますが、理は高次元になると、低次元での見方で認識してはいけません。常人は常人の中にあって常人のことを語りますが、はっきりと説明することができません。しかし常人の域を抜け出せば常人の中のこと是一目瞭然です。思想界や、理論界ではひたすら物質が第一なのか、はたまた精神が第一なのかという問題について議論しており、長い間議論し、いつも物質と精神を分けて議論し、認識しています。私に言わせればそれは一つのもので、一元的なものです。最も簡単な例を挙げてみます。今の人体科学も現代科学も人の考え、人の想像するものは意念からなすエネルギーで、人間が発した意念はすなわち一種の物質であると認識しています。今ではこのことは広く認識されています。そこでそれが一種の物質であるとすれば、それは人の考えや精神ではありませんか？ あなたが思っている考えもそうなのではないですか？ とすれば一つのものではありませんか？ これは分かりやすい例としてあげてみました。

先ほど、宇宙にこの種の物質が存在し、同時にこの特性も存在しているから、それは同一のもので、一元的なものになるとお話しました。この特性に同化しなければ、修煉しても永遠に向上することができません。どういうことでしょうか？ 簡単な例を挙げましょう、この宇宙にある膨大な物質、各種の物質にこの特性が存在し、宇宙で均衡と制約の作用を働いています。人は常人社会にあって世々生々で数知れぬ悪事を働き、私に言わせれば業の積み重ねでここまで来てしまったのですから、誰しも限らない業を抱えているのです。瓶にたとえてみれば、瓶の中に汚いものをいっぱいに入れて、蓋をきつく閉め、その汚いものを出さなければ、どぶんと水の中に入れてとたんに底まで沈みます。少し出せば少し浮かびます。出せば浮かぶわけで、出せば出すほど浮かびます。汚いものをすべて出しきって、瓶の蓋を閉め、水に入れれば、強く押えても沈むことはありません。その位置に浮かんでいきます。その位置はあるべき高さなのです。私が挙げたこの例は、言い換えれば、人間は例外なく常人社会で良くない事をしているため、心が汚れ、考えも汚れ、大きな業を抱えています。これらを取り去り、心性が良くならなければ、この良くないものを造り続け、時々刻々造っているのです。ですから心を良くし、その上、これらの物質、つまり良くないものを取

り去り、つまり、常人の中で修煉するとき、苦を舐め、筋骨を勞し、心志を苦しめることによって、昇華し向上することが出来るのです。私が説いているこのことは修めることによって向上するということで、あなたがその心を修めなければ、宇宙の特性に制約され、向上することができないのです。この功がどのように伸びていくのかを更に詳しく語る事も出来ます。

人間のことに言及しましたが、実際のところ各空間には全て人がおり、各空間に存在しています。時空の違い、存在する身体の違い、形式の違いはとても大きなものです。ある特殊な空間で私たちの身体の周囲に一つの場があって、その場の中に二種類の物質が存在しています。一つは徳で、白いもので、塊になっている物質で、徳の多い人は密度がとても高いのです。以前人々は、徳は意識形態の範疇のものとして扱い、一つの境地だと言っていました。皆さんに教えますが、徳は一種の物質であり、完全に物質的な存在なのです。もう一つのものも同じ場に存在し、それは業力と言い、黒いものです。徳は善い事を行ったり、人にいじめられたり、苦を味わったりして、または苦しい目に遭うことによって得るものです。そして黒い業力は自分が悪事を働くことによって産み出されるのです。昔の人は根基の良し悪しを言うとき、この二つの物質の割合を見るのです。この割合はその人が常人社会での、修煉する人が言う根基の良し悪しを決める主な理由です。ただし常人の肉眼で見る事は出来ません。常人は迷いの中に在って、迷いの中にあるから迷いの中にいながら戻っていかねばならないからです。なぜなら、自ら落ちてここまで来てしまったのですから、何も見えない状況の中で元に戻るように修煉しています。あなたに真相が見られてはならず、真相を見てしまえば修煉できなくなります。悟りということがなくなってしまうわけで、修煉もなくなってしまうからです。真相が見える状態で修煉すれば、誰もが修煉を始めます。ではなぜ佛はいつまでもその次元に留まり、上に行けないのでしょうか？当然佛は全てを知っており、心性の修煉という問題は存在しないのです。迷いの中にいなければ修煉はできないのです。中には自分をはっきり見えてはじめて、しっかり修煉できると主張する人もいますが、もしはっきり見えていれば修煉できなくなります。さらに、見えれば信じるけれど、見えなければ信じないと言っている人もいますが、私たちはこういう人は悟性が良くないと考えます。

先ほどお話しましたが、功は本当のところ人が修めることによってできたものです。先ほども徳という場は人の身体の周囲に存在しているとお話しました。徳が多ければ功は高く伸ばすことができ、徳が多くなければ、当然、黒い物質が苦を味わうことによって、白色物質に転化することもできます。消えてなくなることはなく、この物質は不滅なのです。つまり人間が修煉する時、その人の空間場の範囲内の徳を功に転化させています。本当の功力の大きさ、次元の高さを決める功は己の徳が転化してきた

ものなのです。どの様に転化するのでしょうか？ 昔、修煉者の間で「修は己にありて、功は師父にあり」という言葉（気功界で語られている言葉ではありませんが）があります。どういう意味でしょうか？ すなわち、その一門で修煉したいという願望さえあれば、何かを修煉したいという願望があつて、ただそう願っているだけで、実際には師父がやってくさるのです。意念活動を言う人もいますが、この意念やあの意念を以ってしては、何の問題も解決できず、ただ一つの願望にしか過ぎません。本当にあなたのために鼎を建てて爐を設け、薬を採り、丹を結ばせ、或いは周天の循環を形成させ、脈を通じつぼを開く等、全ては師父がする事です。常人の思惟には何のエネルギーもなく、常人の手ではこういった事はまったくできません。

本当の功が伸びてきて、これらのものを作る機制を形成するには、精密機器に比べても遥かに精密で、とても込み入っており、とても常人のあなたにできることはありません。ある密伝のものとして「修は己にありて、功は師父にあり」という言葉があり、これまでは低い次元にあつては知り得ない事でした。ですから師父があなたの修煉が進み、心性も向上し、宇宙の特性のあなたに対する制約も小さくなったのを見て、功を伸ばしてあげることができるのです。そうなった時に師父があなたに一種の功を授けますが、私たちはそれを、功を伸ばすことのできる機能と呼んでおり、人間の身体の周囲で徳を螺旋状に功に演化させ、螺旋状に上に伸びていくのです。それが頭上まで到達すると、頭上に徐々に一本の功柱が形成されます。あなたの功力と次元が絶えず向上していくにつれ、この功柱は絶えず伸びていき、これはすなわちあなたの次元の高さと功力の強さを決める功なのです。あなたが発するエネルギーはすべてここから由来しています。これは丹ではありません。丹については後で話します。本当の次元はここにあるのです。

皆さんもご存知のように、佛教の中で説く果位はすなわち、あなたの功柱が到達した高さであり、修煉の次元で、到達する次元の高さであり、そこにあるのです。座禅をしている時に元神が身体を離れ、上に上がって行った人がいますが、もっと上に上がったと言ったところ、「だめです。もう上がれません、これ以上上がると、怖くて落ちてしまいます」と言うのです。どうして上がれないのでしょうか？ その人の功柱はそのくらいの高さで、それが彼の修煉の果位であり、彼は自分の功柱に乗って上に行ったのです。佛教の中で、修煉によって到達した高さはすなわちその人の将来の落ち着くところだと言っています。功は完全に人が己の心性を修煉し、宇宙の特性に同化し、宇宙の特性があなたを制約しなくなり、そうなればあなたの功は伸びて、徳は功に演化されるわけです。これは修めることによって作り出されたものではありませんか？ この功は全て人が心を修めることによって作り出したものです。

では動作は何を煉っているのでしょうか？ すなわち人体を改変し、初期には養生

と呼ばれ、最後には長生と呼ばれ、更に機能を加持する働きもあります。加持とは何でしょうか？ エネルギーでそれを強化するという事です。さらに術類のものの演化、各種の生命体の演化もあり、とても複雑なのです。各種の功の形態の出現ですが、全てエネルギーによって強化されてはじめて機能が現れるのであって、エネルギーがなければ語るに値しないものです。功が出る時、気を発することがまったくできず、気はないのです。そのとき発したのは一種の高エネルギー物質ですが、体内から発したという感覚を持つことはめったにありません。これは私が説いたことであり、高い次元で説いたことなのです。しかし、これまでこれらのことは天機と見なされ、語ってはいけないことだったのです。この度、私は講義の中でそれを全て説いただけでなく、更により次元の高いことも説いています。目的は人が本当に修煉できるようにし、人に対して責任を持つためです。私も確かにこのように学習者を導いているため、勝手に天機を洩らし、無責任ででたらめなことをすることにはならないのです。確かにこのような効果を収めており、学習者の心性の向上はとても早く、大法も現在速いスピードで発展し続けています。

法輪大法の講習会に参加してから、世界観まで一変し、これまで長く生きてきたのに、今日初めて何のために生きているのかがわかったとある学習者は言っています。全て学習者が話したことです。つまり皆さんに言いたいのは、本当の修煉のことについてこれまで誰も語らなかったということです。信じられないのであれば古書を紐解いて、『道德経』あるいは佛教の経典を見ても、今まで本当の修煉については悟ることとしていて語ったりはしませんが、私は今日それを語りました。語ったとしても、人類はここまで来てしまっているのです、語っても聞かないでしょうし、信じようとせず、それが説教であり、現実味がない話だと思っています。ただしどれ程語られたとしても、やはり悟りの問題はあります。というのも結局のところ、あなたには見えず、あるいは見えてもはっきりとは見えないので、迷いの中で修めなければなりません。そういった問題が存在します。今私はこの功がどのように伸びてきたのかについてお話ししました。昔の和尚は煉功しませんでした。功は伸びていました。本当の次元の高さ、功力の強さを決める功はまったく煉によって出来るものではありません。

それでは、その動作は何を煉るのでしょうか？ その動作は本当のところ、私が今話した通り、人の本体を変えています。とはいっても、動作を強化するエネルギーがなければ、変えることができません。あなたの身体の分子細胞を高エネルギー物質で徐々に充実させれば、長生という目的に達する事が出来ます。その功がなく、エネルギーが無ければどうやって加持するのですか？ 机上の空論となり、意味はありません。ご存知のように、多くの機能は、師が伝えたものを除くと、多くのものは人体が持っている機能に他ならず、誰もが持っているものなのですが、何の働きもしていま

せん。寝ていて夢を見たのですが、次の日その通りの事が起こったと感じた人がいます。また、何かが起こると予見すると、何日か経ってその通りの事が起こったと言っている人がいます。何かやった時に、「あれ、これは以前経験しているぞ」と感じるのですが、実際にはその人の一生のうちにそんな経験はなかったと言っている人もいます。これはどういうことでしょうか？ 本当のところ、いずれも機能の現れで、早まって将来に行ったり、または過去に行ったりしたということです。しかしその機能はうっすらとしていて、何ものでもなく、エネルギーがなければ役に立ちませんし、先ほど述べたような作用があるだけです。一旦、エネルギーでそれを充実させれば、それを機能の加持と言います。功力を用いてそれを更に強化すれば、それは大変強力なものとなり、使えるようになり、作用のあるものとなります。この心を修めなければ、何を得ようと思っても、何も得られません。

ある学習者は自分が法輪大法の師父だと言っています。多くの古い学習者は皆知っていますが、師父と呼ばれたら、驚いてしまいます。自らを敢えて師であるとは言わず、師はただ一人、李先生だけが師父で、私たちは全て弟子だと言うのです。師を敢えて称するものは、一に名を求める心がたたっているためであり、二に法を乱す企みがあるからです。浩瀚な宇宙で、無数の佛、道、神、異なる次元の主、天神が全てこの法を学んでいるのに、誰が敢えて己を師父と称するのでしょうか？ 心を修めず、徳を重んぜず、どの法門で修煉しても容易なことではありません。正法の修煉は全て徳を重んじます。では、なぜ動物の憑き物などでたらめなものに功があるのでしょうか？ 低い次元において少しの霊気を持つことが許されており、低い次元で人が業を返すことに利用されています。人がこの病にかかったり、その難に遭ったりしますが、全ては自分が作った借りであり、自分が招いたものなのです。

話は少しレベルが高いかもしれませんが、理解できない人もいるでしょう。実は、皆さんにとっても簡単な理を説きましょう。修煉界では人の元神は不滅であると説いていますが、人の元神は間違いなく不滅なのです。人が死んでも、実はまったく死んでおらず、私も死ではないと思います。皆さん考えてみてください。人間の身体の細胞は無数の分子で構成されているのではありませんか？ そして分子は無数の原子によって構成されているのではありませんか？ 原子は原子核、電子、中性子によって構成されたものではありませんか？ そこでさらに掘り下げていけば、原子を構成するものにクオーク、ニュートリノがあります。現在科学はここまでしか認識できていませんが、実際のところ物質の本源物質からはまだ程遠いのです。つまり、人間の身体にそれらのミクロな物質が存在しているというのです。皆さん考えてみてください。人の身体は、息を引き取った時、どうして身体の死によって、原子核が全て存在しなくなるのでしょうか？ 原子、中性子、電子はすべて存在しなくなるのですか？

そんなことがありますか？ 原子核は強大なエネルギーと衝撃によって、やっとな分裂できるのであって、常人の普通の力ではまったく分裂させることができません。遺体焼却炉の火で人間の身体の原子核を分裂させることができるのでしょうか？ 爆発させることができるのでしょうか？ もしもその火で本当に身体にある原子核を爆発させることができるというのなら、一人の身体にある原子成分だけで一部の都市を壊滅させることができます。そうではありませんか？ 私たちは生命がまったく消滅していないことに気づきました。人の死はただ、今の、私たちのこの物質空間で見たこの形体が滅びたに過ぎず、その他の空間に存在する身体はいずれも死んでいません。

私が言っているこの空間を理解するのはさほど難しいことではなく、現代科学でも四次元空間を認識しており、十次元までであるという説もあります。ある旧ソ連の科学者が、もし宇宙が大爆発によって形成されたとすれば、その一瞬に一つの時空だけを作り出したはずがなく、二十数個の時空が同時に存在していると考えべきだと指摘しています。彼が明確に指摘しているように、私たちのこの物質空間、この時間、この時空が存在すると同時に、他の時空が存在しており、このことについてすでに明確に指摘されました。多くの科学者もこの問題を研究し、この問題を議論しています。もちろん、この宇宙空間の存在形式は極めて複雑です。最も簡単な空間形式についてお話しします。私たち人類はどの空間で生存しているのでしょうか？ ご存知の通り、私たち人類が見ることのできる最大の物質は星であり、星が銀河系、各星系を構成しています。私たち人類が接触できる最小の物質は分子です。人間は分子と星との間のこの空間で生活しており、それがとても広々したもので、不思議なほど広いと感じています。それでは皆さん考えてみてください。分子と原子の間に存在するその空間はどんな様子でしょうか？ 私に言わせればそれとても広く、非常に大きいのです。もちろん常人の理論から、常人の概念で物質世界を認識する考えでそれを認識してはいけません。その空間に入って認識すれば、それも極めて広い空間であることが分かるでしょう。

では原子とクオークの間はどうなっているのでしょうか？ クオークとニュートリノの間はどうなっているのでしょうか？ では極めてミクロなところはどうか？ 釈迦牟尼は一粒の砂の中に三千大千世界があると言いました。彼が言う三千大千世界の学説とは、銀河系の中に三千個の私たち人類同様の生命と智慧のある星が存在しています。一粒の砂の中に三千大千世界があると言いますが、仮にそれが真実であるとするれば、皆さん考えてみてください。一粒の砂粒の中をミクロで見れば銀河系と同じように繁栄しており、人類社会があり、人と同じ存在があるというのです。では皆さん更に下へ追っていけば、砂の中に、川や砂があるので

はありませんか？ 更にその砂の中の砂の中に三千大千世界があるのではありませんか？ ではその砂の中に更に三千大千世界があるのではありませんか？ 更に下へ追って行って、釈迦牟尼は窮まり尽きることが無いということに気付いたのです。と言うのも、人間はこの分子で構成された目を使わないで見てはじめて、宇宙の真相を見ることができるからです。到達した次元が高くなればなるほど、よりミクロなものが見え、よりマクロなものが見えるのです。釈迦牟尼も最後まで見ていませんし、宇宙が最終的にどれ程大きいかも見えませんでした。ですから最後に晩年のとき、「その大は外無く」、どれ程大きいかを知らず、「その小は内無し」、どれ程小さいか最後まで見えなかった、という言葉を残しました。釈迦牟尼の説いた事と現代物理学上の認識は、何も抵触するところはなく、理に適っています。先ほど理論的に解釈できるとお話ししましたが、これは私の認識であり、私が説いたことです。人間が息を引取った時、全ての原子核が全て無くなるとうして言えるのですか？ 遺体焼却炉の火が核分裂を起こせると言うのですか？ できるはずはありません。ですから人の肉体は死んでも、その生命が死ぬことはありません。物質は不滅であることが正しい説であり、他の空間では物質も不滅なのです。

現在の科学者は、現在の人類が、真空状態では何の物質も無いというところまでしか認識できないと思っています。実はこれは人類の現有科学がそこまでの認識しか持てないのです。私に言わせれば、真空の中にも物質があり、実は真空そのものも物質なのです。と言うのも更にミクロなところすでに見えなくなり、真空は生命の本源となるミクロ的な物質からは程遠いのです。物質の最もミクロな物質とは何でしょうか？ 本源物質とは何でしょうか？ 私に言わせれば、現在の科学者が現在の研究方法では永遠に認識することができません。と言うのも、現在進められている西洋科学は最も遅いものだからです。人類は最も不完全な発展方法を選択してしまったのです。中国古代の科学の発展は私に言わせれば、比較的正確で、直接人体、生命、宇宙に向き合って研究していたのです。皆さんもご存知の通り、宇宙人の空飛ぶ円盤はいずこからと無く現れ、いずことも知れず去っていきますが、速度は極めて速く、とても不思議で、円盤も大きくなったり小さくなったりします。なぜこれができるのでしょうか？ すなわちその科学技術の研究の発展方式が違うからです。円盤は別の空間を移動します。時空の違いがあるため、瞬時にやってくることも、到着すること、去っていくこともできるのです。

先ほど功について話したとき、この問題について言及しましたが、実は私たちは手を動かして煉った功は、術類のものに過ぎず、機能を加持し身体を改変し、長生きすることができます。しかしエネルギー、次元の高低を決める功がなければ、長生きすることもできません。角度を変えて最も低い次元で皆さんにお話ししますが、心性の修

煉を重視せず、徳を重んじなければ、病が治ることもありません。体操をすれば病気が治るのですか？ 治りません。気功は体操ではなく、それは超常の手段で人を改変させているので、必ず超常の理で自分を要求しなければなりません。練功の時はとても敬虔ですが、ひとたびそこを離れるとそうではなくなる人がいます。社会で欲の為に、個人の僅かばかりの利を巡って互いに争い、場合には憂さを晴らすために闘ったりしますが、これで病が治るといえるのですか？ 絶対に良くなりません。私は今、なぜ功が伸びないのかについて話しましたが、実は他にも原因があります。

更に他にも功が伸びない原因があります。病が治らず、功も伸びないのは、高次元の法を知らないからです。高次元の理を知らなければ、修煉のしようがないのです。これほどの長い年月、皆さんは高い次元へと修煉しようと思ひ、鼎を立てて炉を設け、葉を採って丹を煉り、脈を通して、大小周天を煉っていたわけですが、一生練ってもその次元のままに留まります。気を練ることは最終目的ではなく、何事でもなく、気を練る最終目的は身体を浄化し、高次元での修煉の基礎を作るためです。同時に気を練るという次元で、丹道の方法を取っていけば、丹を形成し、つぼを開き、幾筋かの根脈を通じます。それも低い次元で基礎を作りますが、煉功とは見なさず、ちょっとばかりの基礎作りに過ぎず、身体を浄化していますが、これは気を練ることの目的なのです。人によってはその気を身体いっぱい貯めており、大変良い事だと思っています。私に言わせれば、あなたはただの風船で、それを功だと思っていますが、まったく功ではありません。気を発して病人を治すというのは、まったく間違った認識です。気がどうして病気を治せると言うのですか？ 皆さん冷静に考えてみてください。あなたの身体も気で、私の身体も気で、常人と常人の間は全て気なのです。ただ、あなたの労宮穴が開いたに過ぎず、或いはあなたのどこかの穴（つぼ）が開いたから、気を発したり収めたりすることはできますが、それも気に過ぎないではありませんか？ 同等の次元の物体の間には制約作用はありません。あなたも気で、相手も気で、あなたは相手に気を発して病を治せるといえるのですか？ 下手すれば相手の気はあなたに作用してしまうかもしれません。そうではありませんか？ この次元を超えたものだけが、低い次元のものを制約できるのであって、その功は本当にこの作用を働くことができるのです。

数年前、人々は間違った認識を持っており、多くの気功師は気功を普及させるために出てきたのですが、中にはまったく功が無いのに、功を発している人もいます。なぜ功が出せているように見えたのでしょうか？ 気功の出現は天象がもたらしたのですが、多くの師父は当事者にも知らせていません。その人にパイプを与え、功を発するとき、師父が功を与えるようにしたのです。こういった偽気功師はまるで水道の栓のようなものです。煉功した事もなく、功もないのですが、功を発するとき水道

の栓が開いたようなもので、他の空間から与えられています。発しない時は他の空間で水道の栓が閉じられたようなもので、彼自身には功はありません。彼に功を与えた目的は、己を修煉し、良い人になり、良いことを行い、己を高め、己を開発させるためだったのです。複雑な人間社会にあって、自分で己れの心をよく修め、向上するのです。しかし多くの気功師はこれを理解せず、何かをするためにこの功を与えられたと勘違いし、どこから来たものかも知らなかったのですが、外から来たものだけは分かっています。それを金儲けや気功師として有名になるためだと思い込んでいました。現在そういった人はほとんど残っていませんが、残った人の一部は憑き物のある人で、大部分は憑き物のある人です。人にとってもそれは恐るべきことですが、自分を気功師だと自認し、名声がありますが、数年も経てば、彼らは植物人間のようになり、身体の精華は全て持ち去られてしまいます。と言うのも魔も宇宙の理の隙に付け入って、失わざるものは得ず、功を見返りも無く与えるはずはなく、たくさん金儲けをし、有名になったから、あなたのもものも取らなければなりません。そうではありませんか？ですから、あなたのもものを取り、とても理に適っているのです。憑き物は実はその人が自ら招いたもので、人の病気を治してやったのに自分は却ってあそこが悪くなったり、ここが悪くなったりしますが、自ら病を招いてしまったのです。

では丹とは何でしょうか？ 丹や丹田の気で何かができると思っている人がいます。甚だしい誤解としては、丹田の気で何かをすることが気功だと言う者までいます。私に言わせればこれは気功を踏みにじっています。気功は博大で奥深いもので、気功自体は宇宙の大法に照らして修煉するものです。あなたが恍惚となって丹田の気をもって何かすれば、それが気功だと言うのなら、恍惚となって丹田の気をもってトイレに行くのは何なのですか？ それは気功を踏みにじるものではありませんか？このように認識してはいけません。その内涵は非常に大きく、それほど簡単なものではありません。人間の丹は、私に言わせれば、実は爆弾なのです。人間は最後まで修煉すると、功が開き、丹が爆裂するのです。佛教では悟を開くと言います。その瞬間に爆裂します。その炸裂によって、己の百脈が開き、身体にあるすべてのつぼを開き、命門を開き、機能が放たれます。天目もあなたのいる次元の最高点で開き、あなたがいる次元での宇宙の真相が見えるようになり、こういう働きがあるわけです。それはすなわち一つの爆弾で、それ以外の働きはありません。皆さんも修煉が良くできた和尚が亡くなった後、火葬で舍利を見られたことがあります。つまり和尚が圓寂に臨む数日前に丹を炸裂させるのです。ドカンという音と共に炸裂し、和尚は全て知っていますが、常人には言わないので、誰も知らず、他の人が感じることもできません。丹が炸裂すると、この空間では石と同じようなものになります。私たちは丹を修めません。なぜ丹を修めないのでしょうか？ 私たちは、丹は動かないもので、エネルギー

一を蓄えるということのほか大した働きは無いと見ているからです。和尚の死後、火葬でできた舍利は光沢があり、とても硬く、エネルギーがありますが、それがどんな物質なのかは測定器では測れないものです。それは別の空間で採集された物質と徳が演化し功成った物質から構成されたものですから、科学者が現在識別できない物質です。それは私たち常人社会の物質ではありません。人によっては無理やりに、或いはでたらめに解釈し、それは歯だ、骨だと言っています。それはでたらめな解釈ではないのでしょうか？ 常人の火葬からはなぜ現れないのでしょうか？ なぜ和尚や、修煉した人からだけ現れるのでしょうか？

今、本当に高い次元へ修煉するための道理についてお話しましたが、どの法門、どの流派であろうと変わるものではありません。そこで人によっては、ある山奥で修煉している老道士、あるいは佛家の方法に従って閉じこもって修煉している人たちを師として拜んだことがあるかもしれませんが、彼らはこの真、善、忍に基づいて修めていないのに、修煉がどのようにできたのかを考えるかもしれません。では彼らはどのように修めているかをお話しましょう。彼らはとても苦しかったのです。長年修煉しても、僅かな功しか得られません。しかし彼らは、山奥で修煉し、常人社会を避けているので、その功に鍵がかかっていません。それに対し、常人の中で修煉する場合、功に鍵がかかっており、漸悟状態で修煉する場合でも、一部、または半分に鍵がかかるのです。ですから、たいしたことは出来ません。次元がとても高くなっていたとしても、それを発揮することはできません。しかし山奥にあって、常人の世俗の中に入り込まず、常人の中の事を干渉しなければ、開放されたままで修めており、鍵がかかっていません。少しの功がありますが、大きな能力があるように見えます。と言うのも開放されているのですから。本当のところ彼らの修煉は非常に苦しく、長い時間をかけて僅かな功しかないのですが、彼らはそれを知りません。

私は八万四千法門の路があって、真ん中が大道修煉、大法修煉であると言いました。端の方でも、衆生をあまねく済度し、各種の人が皆学びに来ています。その学んだものの悟りの高さが、修の高さであり、それ以上には高まらず、己の根基が作り出すもので、修がそこまで到達したら悟りを開くのです。ある者はこの修の高さで悟りを開き（手を動かして）、ある者はこの修の高さで悟りを開いたのです。そこで悟りを開いたものはある次元の理を見る事になり、より高いものは見る事が出来ません。ですから修の高さによってただその高さの理を見る事が出来るのです、しかし彼も弟子がいれば、彼が見る事の出来た理を説くのです。八万四千法門には、小法小道は非常に多く、しかも中心から外れるほど、説く事がますます複雑になります。大道は真ん中に近づくほど、大法修煉はより簡単になり、心を修めることを中心に進めればとても早いのです。私たちは人を伴って進むのがとても早いのです。なぜ早いのでしょうか？

か？ 一部の学習者に改変が見られ、著しい功の伸びは不可思議です。法を得る事がなければ、一生掛かっても気というこの次元から抜け出せなかったでしょう。

私のこの九回の講法を受講する中であって、あなたが修煉することが出来れば、私がこの九回の講法の中であなたを抜け出させてあげます。人は修煉の過程の中でこの次元の突破は非常に早いのです。多くの修道者が私に言った事で、私もその方々に、私のこの功の学習者を見て皆さんと比べて如何ですか？と言いました。彼らは不可思議に感じます。この功の伸びは確かに不可思議です。というのも私たちは根本から修め、人のその心を修めるからで、これこそ肝要で、その為とても早いのです。山奥で修行する一部の出家人は、ゆっくり長い歳月修行し、多くの苦を味わい、その苦を味わう事によって修が上がっていくのだと認識しています。実はその長い歳月の中で、彼の常人の中での執着心を削り去り、向上していったのです。私たちは現在人のその心を修め、あなたの執着心、嫉妬心、歓喜心、各種の心を捉えて修する、こういったものを与えて修しますから、とても早いのです。この問題についてはこれくらいにしておきましょう。

まだ多くの方が法輪大法を学びたいと思っていますが、学習班に参加した事はありません、私もあなた方の為に簡単に法輪大法を紹介しましょう。私のこの法輪大法は一種の性命双修の功法です。真の性命双修の功法であることがその特徴です、人の身体の変更が非常に迅速に行われます。同時に、外観上も常人と大きな差異があります、ですから私たち多くの法輪大法を学んでいる古くからの学習者、とくに老年の人が、皮膚のきめが細やかになり、白い肌に赤みがさし、身体はとても強健です。以前は歩いていて階段があると疲れましたが、今は何階上っても息切れもしませんし、脈がどきどきする事もなく、疲れません。以前は少し歩くともう駄目でしたが、今は自転車に乗っても誰かが後ろから押してくれているようです。私の話したこの状況ですが、ここに座っている私たちの古くからの学習者の皆さんに聞きますが、この通りではありませんか？（一斉に：その通り！） 私たちにとってこれは普遍的に存在する現象です。私がここで話しているのは個別の学習者についてではなく、それはとても普遍的です。真の性命双修の功法はここまで到達できるのです。概観上の変化も非常に大きく、多くの老年の人の顔の皺も減り、中には亡くなってしまう人もいます。同時に生理上の変化もとても大きいのです。時間の関係で、その点は割愛します。

更に、私のこの法輪修煉大法は一つの最も独特な功法です。歴史上誰も伝えたことはありません、当然私のこの話は絶対です、すなわち今回の人類の文明時期には従来伝えられたことはありません。歴史以前、相当長いある史前時期に、かつて人類社会にあって一つの主要な衆生済度の方法として人を済度しましたが、今回の人類の文明時期に伝えられた事はありません。ではこの大法と現在あるその気功、あの気功の修

煉方法の理論は明確に異なります、現在人類の修煉しているものは基本的に丹道を歩むものです。丹道を歩むとは何でしょうか？ 言い換えれば丹を結ぶと言えます、寺の和尚も、煉功を説きません、それも丹を結ぼうとするのです。火葬後にあなたが見る舍利はすなわちその丹が炸裂し開いたものです。道士も同じで、民間伝説のある種の修煉方法も同じく、全て基本的に丹道を歩みます。皆さんも密宗を知っていると思いますが、それは丹道を歩まないように見えますが、実はそれも歩み、その他の修するところはやはり丹です。ではその輪は意念によって制御されて回転しますが、意念が制御しなければ回転することはありません、しかもその輪は虚ですが、私たちのこの法輪は実です。

私のこの功法のこの法輪は、当然のことながら自分一人で修煉していても作り出す事は困難です。私たちが多くの代にわたって形成したもので、歴代一人だけに伝え、従来外の人に伝える事はありませんでした。私は現在この特殊な歴史環境の下で、それを人に伝えていきます。ある学習者は先生私に法輪を一つ下さいと言いましたし、他の学習者は書付をもって、私は学習班に参加していませんが、お金を払いますから、法輪を下さいと言いました、つまり輪を買うと言っているのです。皆さんに言うておきますが、この法輪は極めて貴重で、価値を以って測る事は出来ません。縁の無い人はいくら巨額の金を払っても買えるものではありませんし、縁のある人は一銭の金も使わず手に入ります。私たちが見ている今日取り出したこの物は、人がまだ最後にいたっても一点の佛性が有るのを見て取り出したもので、実際私たちが伝えだした効果も比較的良いのです。それは極めて貴重なもので、あなたが修煉する人でない限り得る事は出来ません。一旦この輪をあなたに授けた後、それは二十四時間止まることなく次のように回転します。時計回りの回転と、逆時計回りの回転です。時計回りに転する時は自動的に宇宙からエネルギーを吸収し、エネルギーを演化し、演化したエネルギーを身体の中の必要なところへ供給します。同時にそれが反転する時はエネルギーを発し、発したエネルギーは身体の演煉で生じた廃棄物質を伴って出てゆき、それから再び新たなエネルギー物質を吸収します。それは目的を持って選択する霊体です。あなたが自分で気を捧げ灌頂し、気を採っても、どこへ到達できるはずもありません、あなたにはそれほどの力量も無いのですから、所詮無理なのです。ですからそれは選択する力を持ち、霊体で、人の及ぶところではありません。

そこでこの法輪を下した後、それは二十四時間停まることはありません、いつまでもそのように回転し、いつまでもあなたを演煉しています。つまり「法が人を煉る」という形式を形成します。その他の功法ではあなたが煉功すれば功が伸びますから、煉功時間を増加させるために、多く煉っても、煉らなければ、功は伸びません。しかし私のこの法輪大法では、あなたが煉らなくても伸びます。あなたが煉れば、その機

を強化し、私があなたに下したその機制と法輪を強化し、あなたがそれを加持し、それを強化するという、あなたはそのような一つの作用を起こすにすぎません。しかも真の修煉はこの法が全てであり、かえって法輪は煉るに過ぎず、外側であなたに下した機制が運転されており、法輪は回転しており、身体の中の一切の機制は全て自動的に煉っています。

私たちの説く修は、真の修煉は修を主とし、煉もまたその一方です。あなたはひたすら心性の修煉を重んじ、自らを一人の真の修煉の人として常人社会の中での行為を規制していけば、あなたの功は上に伸びていきます。更に毎日の動作を加えれば完璧で、全て揃った煉となります。動作はとても簡単、ただ五通りの功法です、と言ってもマクロ的に見れば全てを制御し、千、万に上るものを演煉しているのです。ある人がある気功師に質問して、その動作で何を煉っているのですか？ と聞きました。一部の気功師は答えられません。なぜ答えられないのでしょうか？ 答えたとしても良い事はありません。というのも人体が修煉すべきものは千、万、それ以上で、一つ一つの動作がマクロ的に見るととても多く、ものを演煉しているからです。それは何を煉っているのですか？ あなたにどう言いましたか？ 全て煉です。動作は簡単に見えますが、複雑だから良いとは限りません、大道は至簡至易です。小道小法の動作はとても複雑ですが、修煉は動作自身の複雑さの程度ではありません、しかもこの一門がその他の空間にあってあなたに下したものは、複雑ではありません、動作自身も複雑ではありません。

次のように思う人がいるかもしれません。あなたの言っている事はまだよく分かりません。人が丹を結ぶとそれはエネルギーで、和尚の火葬で出てくる舍利というのは信じられるし、それが物質的なものだということも分かる。あなたの言う法輪が腹の中で回ると言う事は信じられない、どうやって生きていると言うのか？ なぜ回転できるのか？ では私からあなたに反問しますが、この銀河系、宇宙は回っており、銀河系も動き、九つの星が太陽の回りを周り、私たちの地球も自転していますが、誰が動かしているというのですか？ 誰がその力を加えているのですか？ あなたに言いましょ、それらは一種の旋機の形式の存在で、私たちのこの法輪も同じような旋機という存在です。ですから自転して止まらないのです。ここにいる一部の人は講義を聞いた事はありません、そこであなた方に法輪が回転する感じを体験して貰います。皆さん一本の手を伸ばし、掌を平らにし、力を抜いて、ただし手と掌は伸ばしておいてください。では、今皆さん一人一人に一つ法輪を与え、掌で回します、どうですか回っていますか？ (回っています！) 二階の人はどうですか回っていますか？ (回っています！) 結構です、これで皆さんも体験しましたが、人によっては回っているのを感じられなかったかもしれませんが、その人たちも冷たいとか、熱いとかを感じ

ています。それはあなたの体が帯びている業力場のなせるものです。冷たいと感じたのは体に良くないところがある場合が多く、または手のその部分に業力があつたからです。ただし回転を感じたかどうかは別にして、熱いとか冷たいとかは感じたでしょう、当然多くの人が回転を感じられたはずです。

私のこの法輪大法は、このような功法なので、そのために現代人が学び、煉功するのに比較的適しているのです。当然の事ですが、法輪大法を伝えだして以来、社会に対し、人類の道德水準の向上に対し良いところがあり、事実が既にこの事を証明しています。一人の常人にとって、一人の人にとって、修煉しようと思うならば、必ず心性に重きを置いて修煉するでしょう。そこで心性に重きを置いて修煉すれば、常人类社会の中で必ず良い人となります、この事は保証できます。ある人はその人の功法も長く煉功を続ける事が出来て、恍惚状態だと言います。私に言わせればそれは煉功ではなく、病氣治療と健康保持にしか過ぎず、気を煉る中での一つの状態で、煉功ではありません。もう一度言いますが、たとえばそれが本当の煉功だとして、試していただきたいのですが、恍惚の状態ですっかり仕事出来ますか？ 上司に与えられた仕事をきちんと完成する事が出来ますか？ あなたが企業経営者であっても、個人事業者であっても、社会に対する義務は果たしますね？ では事務室で、恍惚とした状態で座っていて何が出来ると言うのですか？ ろくな事は出来ず、そうでなければ危険な事になるのではありませんか！ この作業者は恍惚とした状態で仕事をしていて、手を歯車に挟まれても不思議はありません。高所作業を恍惚とした状態でやれば落下しても不思議ではありません。これは生産の安全の問題ではありませんか？ それでは長期に煉功が出来るはずもありません。ただし私たちのこの功では確実にこの問題を解決しました、私たちは宇宙の特性に同化し、一人の善人となり、それが修煉者の基準であり、私たち学習者の中に知っている人もいる通り、功の伸びもとても早いのです。私たちのこの功法では小事を追求する事はせず、道を説く事もあまり多くありません。と言うのも、大道修煉、大法修煉、にあつては道を説くことは極めて少ないからです。私たちはまたどの方向に向かって煉るとか、どの時間に煉るとか、にもこだわりません。と言うのも私たちのこの法輪大法で、煉るものはとても大きく、私たちのこの歴史時期、私たちの今回の人類文明に出現したもののの中でこれほど大きなものを煉ったことはありません。私がこのものを伝え始める前、信じられなければ見てほしいのですが、動物の動作を真似する修法があり、しかも何々名人、聖人、動人、更には道、神、佛もあつたのですが、結局のところそれは極めて限定的でした。

私たち法輪大法は宇宙の演化の原理に照らして煉功します。というのもその法輪は宇宙の演化の原理に照らして形成され、宇宙の最高特性、真、善、忍が私たちの修煉を指導します。私たちは最高のものに照らして煉っており、煉っているものはこの大

いなる一つの法だと言えます、宇宙を煉っているのに等しいのです。私たちはまた方位を問いません。皆さん考えてみてください、この宇宙にどんな方角があるというのですか？ 宇宙自身は運動しており、私たち銀河系も動いており、九つの惑星が太陽の周りを回っており、地球も自転していると言うのに、どこに東西南北があるというのでしょうか？ 皆それぞれ回っているのですから、根本的にこういった方角の概念はありません。ただ、人類が現有人類の角度から、私たちの地球を区分しているだけの話です。ですから私たちの煉はこのような大きなもので、宇宙を煉っているのに等しく、当然、方角の話などありません。ですからあなたがある方角に向かって煉っていても全方位に向かって煉っているのに等しいのです、あなたがある方角に向かって煉っていても、分かりやすく言えば同時に東南西北に向かって煉っているのに等しいのです。ですから私たちは根本的に方角を問いません。というのもこれは運転されているものであり、回転しているのです。

私たちはまた、時間を問いません。なぜ時間を問わないのでしょうか？ 多くの功法は子の刻の煉功がよい、辰の刻の煉功がよいなどと言います。当然私たちも子の刻には、時辰としてよいかも知れないと思うかもしれませんが、しかし私たちはそのような小さな時間の範囲内で煉っているのではないのです。その大きな宇宙で、あなたの地球では子の刻が良いとしても、その他の空間の中ではこの子の刻が良いとは限りません。ですから私たちはここに局限しないのです。ただし子の刻には有利な条件があります。それは比較的静かで、深夜で人が静まり、煉功に適しているでしょう。中には辰の刻が煉功に良いと言う人もいるでしょう。当然私たちにもそういう道理はありますが、私たちは時刻を問いません。ただし私たちは早起きして、皆さん集まって一緒に煉ったり、或いは夜集まって一緒に煉ります。なぜでしょうか？ それは皆さんが集まって煉功すれば、どんな問題に遭遇しても互いに切磋琢磨し、共に解決できるからです。互いに検討する事で、皆さんが共に向上することに役立つからです。ですから私たちが選択したのは、皆さんの集体煉功という形式です。人によっては職場があり、時間が取れるのが夕刻ならば、煉功は夕方すればよく、本当のところ、毎時毎秒あなたが煉っていなくても功が煉ってくれます。あなたが煉功すれば私にあなたに下したその機を強化し、私たちは機に随って行えばよいと言いますが、手や動作はその機を強化するにすぎません。

私たちはまた功を収めることは言いません。功を収めることを説かないのは功を収めるという概念が無いからです。他の功法では練功が終わると功を収めて戻し、周囲に発散したエネルギーを場から取り戻し、功も止まります。私たちにはこのような概念はありません、と言うのも私たちは二十四時間全て煉っているのです、根本的に収めるとか止めるとかという概念が無いので、功を収めると言わないのです。そこでこん

なことを考える人もいるでしょう、煉功を煉っている時に電話がかかってきたら、あるいは突然人が来てドアをノックしたら、どうしたらいいのだろうか。その時はすぐに客人を接待し、電話を取っても全く問題は無いのですが、なぜそうなのでしょう？　と言うのは人が煉功するとその周囲には一つの間が存在し、あなたの法輪には霊性があります。あなたが自分の考えの中で何かしようとする時、法輪が今は煉っていないと知り、その瞬間に回転の方向を時計回りにし、体外の間を「さっ」と吸収します。あなたが人為的にやっても駄目です、気を捧げ灌頂し、取り戻そうとしても無駄です、と言うのもこういった一つの間が制約しているからです。今私は皆さんに法輪大法というこの功法の特徴を簡単に紹介しました。当然まだまだ多くの事があり、更に良いものがあります。私たちは講義の中で語り伝える事が出来ます、と言うのもそれは系統的に語るからです。

次に私たち一つの問題をもう一度話します。つまり異なる階層の人がどのように煉功するかと言うことです。皆さんも知っているかと思いますが過去にこういう言い方がありました。貧乏で何も持たず、財産も無い人は修煉が出来ると言うことです。異なる宗教の人たちはそれぞれ自分の一門の理を説きます。佛教ではいくら広げても釈迦牟尼佛が証悟したものを巡って説いています、後人が誤って伝えた理論を説いています。また道家はその太極の、しかし誰一人この宇宙についてはっきり説いていませんし、あなたがこの枠組みから飛び出して宇宙全体を説けば、宇宙の法、宇宙の特性、神、道、佛の根本は何か言えるのですが、全てその己の一門について述べる事になります。況やこのあたりには多くの道家の門派があり、佛家にも多くの門派があり、全て己の門派の理を説いています。私たちはこれを切り開いて宇宙の真相を説き、現代科学と人体科学に結び付けて説いています。では私たちに説くところは何の道理なのでしょう？　皆さんは多分宗教の中で説いていることを聞いた事があるでしょうし、イエスもこう言っています。金持ちが天国へ行くのは駱駝が針の穴を通るより難しいと。その説くところは金持ちが修煉するのは難しいということです。ただし私たちは修が難しいというのは、金持ちは修煉できないと言う事ではありません。表面だけを見てはいけません。金持ちはその金銭、財産を放棄するのが難しいと言うのですが、私たちは本質を見るべきで表面だけを見てはいけません。私の言う事は物質的なものを投げ捨てて始めて真修になるということではなく、財産に執着する心を放下して、それを恬淡と見て、軽く見るという事です。

私は今異なる次元にある人がどのように修煉するのかと言う事を言っているのではありませんか？　皆さんに言っておきますが、人が、人の世に生きる所以は、ただ一字、情なのです！　喜怒哀楽、あれをしたい、これをしたくない、あれを食べたい、これは食べたくない、あの人は好き、この人は嫌い、近親の情、友情、愛情、父母の

情、一切の一切、人の一切の来源は全てこの情です。ですからこの情が執着心を生じさせます。あなたがこの情に影響される時、嫉妬心も生じ、ですから人は情のために生きているのです。そこで人の具体的な修練はあなたのこの心を取り去ることで、徐々に削り取り、無くなるまで磨耗させられれば更に良い事で、それが次元の体現だからです。つまり徐々にこういったものを淡々とみていけば、こういった常人の執着する物に淡々としていられます。そこで常人は、誰しも常人の最も執着するものはすなわち名と利です、ですからこの二つのものを追求する人が最も修練が難しいのです。名の追求には、地位、職位、権力の追求も含まれ、利の追求では、主は金銭と物質ですが、この二つのものを追求する人は最も修練が難しいのです。本当のところ、私たちは難修と言っていますが、ただしみな修練することは出来ますし、修できないとは言っていません。あなたはその金銭を全て捨てなければ修練出来ないのでしょうか？私に言わせればそんなことはなく、本当の修練は、富の有り無しではなく、それは佛家の理であり、富はあなた自身の福分が作り出す物、己の徳が作り出す物であってしるべき物です。ですから富自身は決して罪ではありません。

私たちの説いているものは、あなたがその次元の中にあつて如何に良い人になり、物、欲、名、利に淡々としているかです。家に満貫の財があつても、そんなことに捉われず、淡々として、更には金の事には関心も持たずいけば、何の問題もありません。あなたの家にお金が溢れていて、床が金で出来ていても、私に言わせればどうでもよいことなのです。修とはすなわち人のその心を修する事で、物質的な面で何かを取り去ろうと言う事ではありません。仮にあなたが大官でも、その身分を重くみず、大官として人民に尽くし、衆生の幸せを計り、人のためを思うのであれば、立派な役人ではありませんか。当然この人類社会は複雑ですが、あなたが置かれている階層の中で、この関係を正しい位置に置き、私たちのこの法の要求に照らして事をなすのであれば、あなたは一人の良い人であり、一人の修練の人となれるのです。

異なる階層の人にも、常人には常人の矛盾があると言う事が言われます。一般の職員にも、その間に利害の衝突がありますし、高い職位にある人たちの間にも人と人の間の葛藤と矛盾があり、より高い職位にある人たちにも、その階層での矛盾の状態が存在します。つまりあなたの置かれているその次元の中で、その環境の中で、あなたが個人の利益の追求といった事に、如何に淡々としていられるかという事です。あなたが如何に良い人になり、多くの良い事をし、人の為の良い事をし、如何に向上するかに努めれば、どの階層にいても修練出来るのです。私たちは既成の宗教を超え、既成の門派の理から離れてこの事を説いています。物質の面であなたに何かを本当に捨てさせようということではなく、全て何も無いところから修練させるといったことでもなく、そういったものに恬淡としていられるかどうかという事なのです。私たちが

修するものはその心ではありませんか？ その心が無ければその目的に到達できないのではありませんか。人類社会に本当に何も無ければ、全て原始社会です、私はそれでは駄目だといっているのです、そうではありませんか？ 人類はその発展の方向に従って発展しているのであって、実質上こういった事なのです。

以前多くの方が私に、私たちはどうやって修するのですか？ と尋ねました。当然、現在社会はとても複雑で、様々な事情もあり、却ってそれを具体的に解き明かすわけにはいかず、ただこの法に照らして行うのです。あなたに全て詳しく説いてしまえば、あなたの修ではなく、あなたの悟りでもなくなります。そこで具体的な問題については、己で悟り、己が修すれば、修となって、あなたを向上させることが出来るのです。全て説き明かせば、あなたは向上することも無く、全てをありのままに捉えて、それに照らして行えば良いのです。人は本来迷いの中にあり、迷いの中から悟るのです。人は全て見通せれば、修しますし、悟れます、と言いますが、私に言わせればそれは悟っていないという事です。その覚者はなぜ修し難く、向上し難く、いつまでもその次元にいるのかと言えば、その環境の中には味わうべき苦が無いからです。ここでは全てが素晴らしく、迷いも無く、何を悟れると言うのですか？ しかし常人の中には迷いがあり、真相も見えず、真理も見えません。

人々は皆現実の利益の中で、争い、闘い、もしそこに善人が現れて、私はあなたと違ってそういったものに争いませんと言って、名利に淡々としていれば、その人はとても目立つでしょう。あなたが常人にとって良いということに対して淡々としていれば、高い次元から見ると、その人は金のようにきらきら輝いて見えるのです。昔功の高い人は弟子を選ぶ時、弟子が師父を探すのではない、と言っていたのもこの道理です。誰しもそのような人を選びたいのです。常人は全て常人の中で迷い、常人の己れの為すことが良い事であると思っていますが、高い次元から見れば全て反対で、人は全て己のために生き、私心があります。ですからあなたの執着するもの、私欲を満たしたいと言う心理、これらを修煉の為には全て捨て去らなければなりません。はっきり言えば、修煉は人の執着心を捨てる事で、私の説いている事の根本的なところですが、修煉は即ちあなたの各種の執着心を捨てる事です、本当のところ修とはあなたのその心を修める事です。私の説く本門の修煉は人心を直接指し、かつそれを実践することが肝心であると説いています。

さらに一つの問題を皆さんに話しておきましょう。なぜならここには古くからの学習者もあり、私たちもまた縁で結ばれています。一部の人達が大法を破壊しようとしています、僅かな数ですが、極だっており、その他の功派のようではありません。ある人は金のために、功派と功派の間で抗争し、功派内部でも抗争し、心性など問題にせず、胡散臭い物です。皆さんは私たちがここにあって、法輪大法は浄土だと知っ

ています。私は敢えてこう言います。私たちは人と人の中でどういう心を持っているのでしょうか？ 皆さんは全て互いに助け合っています。法輪大法の学習者は一緒に何をやっているのでしょうか？ 私たちが広州の講習会にいたとき、ある学習者はお金がありませんでした。すると皆さんが持ち寄って人を助けていたのです。あなたが他の功派の中で、見ることのできない事ですが、私たちこの良い人が良い事をするという中ではいくらでもあることで、極めて当たり前の現象なのです。これは浄土と言えるものではありませんか？ と言うのも私たちは直接人の心を修め、人の心性の修煉を重視しますから、必然的にこういった結果になるのです。ですから私たちは修煉過程の中にあって、皆さんは今後この心性の修煉に重きを置いて下さい。

同時にこの法を好く理解してください、私の言いたいことは本をよく読んで、その法理を理解し、法を学ぶ事です。動作を懸命に煉る必要はありません。あなたが一日中動作を煉っていても、先生の説いたことは全て忘れて、つまり私の言いたい事は法を修めなければならないということです。何を持ってあなたを指導すると言うのですか？ ですから皆さん大いに本を読み、法を学び、本を読むことと煉功を同様に毎日怠らず、毎日読めば、良い人になることを導き、心性も修によって高まり、功も伸びます。あなたがひたすら動作を煉りたいと言って、一日中朝から晩まで、疲れ果てるまでやったとしてもその功は伸びません。法輪は自動的に回転し、煉ればその機を強化するのだからと考えるいでください、法輪はあなたが功でああなたが演煉する物を与え上に運び上げる準備をするのですが、その宇宙特性があなたを制約し伸ばす事をさせないのですから、なんの役に立つと言うのですか？ ですからあなたは必ず心性の向上を図らなければいけません、そうすればあなたの功は上に伸びていきます。必ずこの問題を重視してください。

またある学習者は一つの問題を出しました、すなわちわたしたち学習者は将来どの様に功を伝えるかということです。この事について私は皆さんに話しておくことができます。その事を話す前に、まず一つの問題を話しておきましょう、私たち学習者の中には講習会に参加したことがなく、自分で学び、自分で煉っており、煉功者の基準に照らして煉っており、私が自ら法輪、法身を授けなくても、すべて（得べき物を）得ています。と言うのもそれには一つの原因があり、私の学習者が教えたとすれば、私の学習者には全て私の法身の保護があるからです。皆さんもご存知の通りなんら迷信などではありません、それ（法身）は私が修煉の中で構成した私同様の形象を持った生命体です。それも同じように法と大きな力量を持っており、それが法身です。私には数限りない法身があって学習者を保護します、ですから全ての学習者は本当に修煉すれば保護が受けられます。そこでこの学習者は、あなたが学びたいと思ひ、学習者が教えるときに、この法身が自然にあなたの体を調整し、自然に法輪や

機制を授けます。ただしそれは必ず真の修煉でなければならず、それならば必ず得られます。ですがこの超常のものをあなたに授けた後、もしあなたを保護する人が誰もいなければ、あなたも危険です。どうすればよいでしょう？　そこでも私の法身があなたを保護する必要があります、このことは保証します。では今後あなたたちはどういう形で功を伝えればよいでしょう？　私からはっきりと言いましょ。私たちは全国各地の煉功点と学習者のそれぞれが功を伝えていいのです。ただしお金は取りません、誰であってもお金を取ってはいけません、煉功点も集金してはいけません。功を伝えることは無償です、真の修煉は功德を積みます、名利も求めません、そのようにして伝えてください。もしあなたが本当にこのようにしようと思うのであれば、言っておきますが私の法輪大法で金儲けを図るのなら、あなたには何もありません、私の法身があなたに授けた物を全て回収し、それであなたがこの法を破壊することを許しません。私たちはこの問題について明確に話しておきます。ですからあなたも気にすることはありません、私が功を伝えても、その人が法輪と機制を得られるでしょうか？　同様に得られます。あなたが伝えれば私の法身は全て知っています。

ではその人に教える人が誰もいなければ、本を読んで学べるのでしょうか？　得ることは出来るのでしょうか？　得られます。例えて言えば、釈迦牟尼佛にせよ、老子にせよ、或いはその他の覚者であっても、この世にいたのは限られた年月ですが、その一門の人たちは、今でも修めていますし、昔も確実に修めていた人がいました。なぜでしょうか？　それは法身がいるからで、私たち多くの学習者に見て取れます。私の写真、つまり本の中に私の写真がありますが、その眼が動いているようで、ある人は身体が動いているように見え、あるいはもっと違った感覚がありますが、ある人は師の法身があると言います。その写真のところにだけあるわけではありません、ここには私たちの新しい学習者もいますから、あまり高いことは語れません。皆さんに言っておきますが、あなたが学びさえすれば、その本や、そのビデオテープを見て、その録音テープを聴けば、同じように得られるのです。心配することはあなたが修めないことです、動作は一生懸命しますから、その超常の物を得たいと言っても、これは絶対にありえません。あなた方が本当に修煉すればそれが得られます。今私はこういった一つの問題を話しましたが、これは私たちの多くの古くからの学習者に対してと共に、新しい学習者にとっても良い事ですので、これを聞いておいてください。

更にまた一つの問題があります、私は病気治療についてお話しします。ある人が言うには、考えがとても頑固で、こだわる人が多くいます。一部の西洋医学の医者の中にもこう考えている人もいます、こう言うのです、あなた方の機能が病気を治せるのなら私たちの病院は何をしるというのですか？　つまり言い換えれば機能が病気を治せるということを認めていないのですが、それには道理がありませんし、言っている

ことも理に合っていない。では功能で病気は治せるのでしょうか？

私たちは低い次元で修煉している人には、根本を治せない事を見ており、それはただ表面のところを治しているだけです。もう少し高まれば、その病を他へ移動させたり、後へ回したりすることで、とりあえず好くなったように感じさせますが、何年かするとまた発病したり、他の難に転化させたり、親戚や友人の身の上に移したりといったことが出来る様になります。本当にその病を治そうとするならば、そういった能力を持った人がいなければなりません、つまり人の業を消す事が出来る人で、これは一般の人に出来る事ではありません。必ずそういった能力を持った人で、しかもそれに対して本当に修煉した人だけがそうすることが出来て、常人が勝手にすることなど絶対に許されるはずもありません。というのもある人が悪事を働いたのに償いをしなくてもよいということに等しいからです。

そこでここには理があります、功は病を治せるのです。この長い年月の間に、どれ程多くの人が自らの鍛錬を経て、あるいは修煉者によって病を治したか、眼を見張るほどで、誰もこの事実を否定できませんし、言い換えればそれが病を治せると言う事です。高次元での修煉のもので、それが出来れば低次元にいる人の病を治してあげることが出来て、当然それが顕れれば奇効です。病人が徳を重んじ始め、ある人は常人社会にあってとても良い人であれば、煉功の後にその病はよくなります。しかし修煉は一種の超常のもので、そのため超常の理に従います、ですからこのものは広範囲に常人社会を攪乱してはならず、それは絶対に許されません。気功で病院を開き、診察をしたり、リハビリセンターを開いても、その治療効果は一落千丈でそうなることを保証します。

皆さんもご存知のように、本当の功夫のある人の病気治療はただ一回です。消すべき業がとても大きければ駄目です。病は基本的に一度で全て好くなります。功が打ち出され、いかなる手法も語られません、何の手法があるというのですか？ 機能が打ち出され、身体のいかなる部位であっても通り抜け、功が打ちくたされ、病は直ちによくなります。本来いかなる手法も無いのですが、偽気功師は人を騙すために何とか治療の手法とか、何とか排とか、泄とか、補とか、一把抓とか、気針とか、電針とか、光照とか、ともかくでたらめな手法を並べ立てます。本来修煉する人の功はどう打ち出してもいいのですが、まだ何々の手法とか言っています、根本的にそんなことはなく、それは誰かが金儲けのために言い出したことです。本当の修煉は、実質上そういうことなのです。

しかし常人の病は勝手に動かすわけにはいきません。一旦こういった気功の病院ができると、治療効果はたちまち一落千丈で駄目になります。というのも超常のもので広範囲に常人社会を勝手に掻き乱すわけにいかず、常人は常人という次元にあり、そ

の最低次元の法に従うのです。であれば高次元の法で常人の理、常人と言う次元の法に干渉してもよいと思いますか？ 宇宙の理を破壊し、常人空間の理を破壊するのに等しいのです。ですからあなたが本当に病院をやろうとするのであれば、あなたの治療効果は、必ず常人の病院の治療効果と同じでなければなりません。それ故、みてご覧なさい、全て病院を始めたり、治療所、リハビリセンターで、気功治療をやっているところは、治療に当って何々の幾つかの治療過程があって、幾つかの治療過程の後で治るなどと言っています。聞くだけで笑ってしまいますが、気功が幾つかの治療過程が必要で、治療効果も良くありません。かえって普通の病院治療に劣るところさえあります。直ちにこの問題が出現しますが、なぜならそれは超常のものだからです。

人が修煉の過程にあって慈悲心が生じ、衆生が苦しむのをみて、自身は既に三界を出ており、功が高ければ人を助けて動かしても、局部的なことであれば許されます。勝手にやろうと言う事であれば、許されません。この人の修煉がとても高い次元に到達した時に、多くの人の病を治すことが出来ます。しかし修煉がその次元に到達した人は、その病を勝手に動かすことは出来ないと言う事を知っており、その理を見抜いているのです。病業は全て因縁関係があり、人は皆業を返すべきものなのです。あなたが勝手に取り去ることは悪事を働くに等しく、業を返さないという事であり、それにはその理があるのです。そこである人が、気功の病気治療は、ある意味で、あなたの現時点の苦痛を除去するのだと言います。そこで病院ではどうして其処だけではないのか？ それはあなたの業を移しただけで、その業が取り去られたわけではないのです。

私たちの言わんとするところは病の本質は別の空間の問題がこの空間に反映された物で、たとえば身体の中に生じ、炎症となったりウイルスや細菌となったりします。小さな業が、大きく密集し、この空間に反映した物がウイルスで、大きな業力は、細菌そのもので、私たちが見ているのは、まさにそれですが、別の空間に存在するものを、人がどうやって根治できるというのですか？ と言うのもあなたにはこの空間を突破できないのですから。業はすなわち黒々した一団一団のその業力です。ですから私たち修煉界にあるものは病について説く事も、語る事ありません、全ては業力で、つまりはそれが問題なのです。私が今説いた事は、実質上その病を勝手に移す事は出来ないということです。あなたが慈悲心から、特殊な環境にあって、人の（病を）移動させることを助けることは許されることです。個人の名利や、金のため、利益のために行ってはいけませんし、出来ません、そこにはそのような理があるからです。

そこである人はその病を治すことは衆生を済度することではないのか？ それは良い事ではありませんかと言いました？ 末法時期にはその経書もすべて曲解されています。あなたがその『大藏経』をめくって見ても常人に治病を施す事が衆生を済

度することだと書いてありますか？ 全くありません。衆生を濟度するという事は常人のこの苦しい環境にあって、あなたを濟度して高い次元に行かせ、その苦を永遠に受けなくてもよい様にする、という意味で、これこそ本当の衆生濟度であり、根本的なところから人の問題を解決します。しかし常人の病を治すことが衆生を濟度するというのは、偽氣功師の言う事で、金儲けのためであり、佛が人を濟度する時にこのような目的は全くありません。皆さん考えてみてください、人の病気を治すことが衆生を濟度することであれば、その佛の能力は大変なものではありませんか？ その高次元にいる大佛の足は地球よりも大きく、手を一振りすれば全人類の病は全て無くなります。ではなぜそうしないのでしょうか？ これは良い事で、衆生を濟度することではないですか。人は業を得れば返さなければならず、この理を破壊するわけにはいきません。人は己が造った業を返さなければなりません。修煉しようと思うのであれば一方で心性を修め、一方で業を返して元へ戻るのです。あえていえば、その人が出国しようとし、行こうとしている国が比較的豊かな国であるとしましょう。であれば元の国で借りているものは返しておかなければなりません、それを捨てておいてばたばたと行ってしまっても良いのでしょうか？ 全て返し終われば行っても良いのです。こういう意味です、修煉したければ苦を味わう、それにはこういった理があるのです。当然大法を修める事によって、一部は消されますが、一部を消さなければ、修める事など出来ません。人は業に業を重ねてここまで来てしまったのですから、障害がとて大きく、そこで一部を消してあなたが修煉できるようにしてあげるのです。私が今話した事は病を治すことの中にある道理を皆さんに教えています。

ではなぜ一部の氣功師が、私の功を三日学べば病気を治せる、五日学べば病気が治せる、十日学べば病気が治せると言っているのでしょうか？ 氣功師として、講習会に参加すれば誰でも氣功治療師になれるというのです。ではなぜ大多数がそうなれないのでしょうか？ なぜ一部の人はいささかの病を治せるようになるのでしょうか？ 原因はなんなのでしょうか？ 出来ない理由は常人の理を破壊する事は許されないからです。ではある人が手を伸ばして人を治し本当に直ってしまう例はどれ程あるのでしょうか？ 自分が興に乗ってしまうだけでなく、更にそのいわゆる氣功師なるものに信服してしまうのではありませんか？ 言っておきますが、それは騙されたことになるのです。そういったことをやるいわゆる氣功師は往往にして憑き物があるので、その憑き物がいささかの功を与え、功がなければ病も治せませんし、それも機能であるのです。それはあなたに一点の情報をあたえ、僅かなエネルギーを与えますが、そのエネルギーは消耗してしまう物です。あなたが一つの病を治せば、その一部を消耗します。またやればまた消耗します、いくつか続ければもうなくなります、そこから先は人の病気を治したいという執着心が強烈になります。しかし使い尽くしてしまっ

たので、治そうとしても治りません。

しかも悪い事に、一つの問題が生じます、どんな問題でしょうか？ その先病気を治すときに自分の根基を使って、人の病と交換するのです。どういうことでしょうか？ すなわち、この宇宙には理があって「失わざる者は得られず」と言う事で、得る事は失う事になるのです。あなたは良くない物を得るとは見ないで、人の病気が治せなかったのも、とにかく治したいと思うのです、そこでどうするでしょうか？ この病を自分に移して、病人を治します、何がなんでも病を治したいのですから。人によっては直せるのなら自分がその病を受けても良い、これは慈悲心からすることではなく、治せなければ、自分の名が落ちることを恐れているのです。こういった気功師が人に与える害はどれ程でしょうか？ このように名利心が重ければ、この名利心が人を害することはひどいものです、彼は名が落ちることを恐れ、その病を移そうとし、自分で受ける事もいとわないのです。では、得る事ができたとしましょう。得ることは無償交換ではありません、病を得たと見ないでください、消え去ったら徳に変わります、物質は不滅で、転化できるのです。あなたが与えて、それで、人に徳を与えて交換する事になるのです。そこで交換できる唯一のものは徳で、徳を人に与え、自分は人の病を得るといふ、最も愚かなことです、この徳こそとても貴重なのです！

以前宗教の中で言われていたことで、お年寄りたちも語っていましたが、今生での苦は気にする事はない、善いことを沢山して徳を積み、来世では福があると言うのです。言外の意はすなわちこの徳は財をなし、地位をなすと言う事ですが、私たちの見るところ徳との交換形式なのです。あなたがその財を得たいと思っても、交換すべき徳が無ければ得られません。ある人は商売をすると、たちまち大をなします。ある人は何をしても駄目です。彼には徳が無いか、非常に少ないので、交換するものがありません。ある人は、あなたに言っておきますが、その徳が少なければ、乞食になっても、食べるものも恵まれません、人に徳を与える事で、人は食事を恵んでくれると言う、交換形式なのです。ですからあなたに徳が無ければ何も得られず、全て黒い業力で、その人は十悪の許されざる者です。待ち受けているのは徹底的な壊滅で、元神も全て消滅され、形神全滅と言うとても恐ろしい事です。壊滅される時、各次元で、下へ生命が消滅されていき、全ての罪悪と共に生命が消滅されるのです。

その徳はそれほど貴重なものなのですから、勝手に人にあげてしまっているのでしょうか？ あなたはその気功師が人を害していないと言うのですか？ 人を害し己を害していて、その悪はとても大きなものです。彼はあなたに人の病気を治させ、執着心を掻き立てて、あなたの根基が良ければ、自分の徳を他人の病気治療に使わせ、その病はあなたの体に移り、徳を他人に渡すのです。このところ少なからぬ人がそのように人の病気を治し、自分はまるで大病を患っているかのように、家に戻って辛い

思いをしています。このような人はどのくらいいるのでしょうか、かなり多いのでは
ありませんか？ その人の病気治療はそのような事ではありませんか？ 事実全てそ
の通りで、人の病を治して自分が辛い思いをし、あなたはその徳を人の病と交換する
のです。これは問わないとしても、あなたは本来円満成就できる人で、高次元に修め
て果位を得られる筈だったとしても、これで駄目になります。どこまで駄目になっ
たのでしょうか？ 人の名利心は最も捨て難いものです。誰かがあなたを褒めればいい
気になるし、人は誰でもこういった頑固な意識を持っていて、誰かにおだてられれば、
得意になります。誰かがあなたを一声気功師と呼んで、「わー、あなたは私の病気を
治してくださった、すごい力です」と言えば、あなたはどれ程嬉しいか分かりません。

そこでこの名利を求める心が起こると、皆さん考えてみてください、その心を取り
去ろうとしてもとても難しいのです。少なからぬ人に病気治療をしてはいけないと言
いましたが、治療させないと手がむずむずしてくるという有様です。この名利を求め
る心が起こったら、どうやって取り去るのでしょうか？ しかも人の病気を治している
とき、病人と一つの間を形成します。というのもあなたは世間法修煉の中にいますか
ら、あなたの修煉が如何に高くとも、自分を防ぎ守る能力は無く、病人と相通じる一
つで、病人の体にある病気があなたの体にやってきます。甚だしい場合あなたに
比べて病人の身体の病気は多く、しかも病の根をあなたが動かさなければ、あなたも
病気を治せないわけです。少しばかり黒い気を軽減させれば、病人は心地よく感じ、
一方であなたは苦しむ事になります。久しくこれを続けていけば、あなたには病が、
一つ、二つとなっていくのですが、更に続けて、誰の病でも治療するとなれば、あな
たにはあらゆる病の気を一身に被ることになります。ある気功師はあなたに排など
と言いますが、私は言っておきますが、修煉は「修は己にありて、功は師父にあり」な
のです。あなたが己の常人の手で、常人の意念でそのような事が出来るというのです
か？ あなたがその病の気を排出したいと思っても、あなたが自ら抱え込んだ長く治
癒しない病を排出出来るのですか？ あなたには排出など出来ないのです。ですから
気が下へ走ると感じ、よい気も、悪い気も同じように走り、飛び出してまた戻ってき
ます、ですからあなたを害する事は相当な物ではありませんか？ あなたは自分で体
を汚い物で満たし、その黒い病の気は何ですか？ 即ち業でこの空間の体に反映され
る物は即ち病です。あなたは自ら一身に病を受け、名利心も首をもたげ、この心は捨
て難く、あなたが人の病を治せばひどい目に遭うのです。

世間法修煉にあって、多くの人知らない事ですが、修煉を始めた時に身体の浄化
が始まります。気を用いて体を通じさせ、体を清めますが、それはこの目的で、高次
元での修煉に備え、さらに基礎を固めるものです。高次元での修煉になっても、絶え
ず浄化し、絶えず浄化し、更に清純に、更に清純に、更に清純に、最後には高エネル

ギー物質で置き換えるのです。全ての世間法修煉は己の体を清純にすることなのです。では考えてみてください、あなたが絶えず人の病気を治していたら、絶えず汚れた物を自分に取り込んでいるのですから、修煉に全くそむく事ではありませんか？ あなたが人の病を治すとき、本当に大慈悲心が起こっているのですか？ 違いますね。あなたは名利心によって、銭のため、名の為にしています。病気を治せば、手がむずむずし、人を治さなければ、能力を隠しているようです、こういうことではありませんか？ そこで修煉と言うのは人の執着心を取り去ることではありませんか？ あなたがその心をどうして取り去るのか？ と言えば、それがあなたを害する事は決して浅くなく、ですから私たちはここで病気を治してはいけない根本原因を話しているのです。

本当に病気が治せるとしたら、修煉がとても高い人で、まだ開悟していない人です。こういった人が偶然良い人に出会ってその病を治しても、それはかまいません、ただし往往にして名も留めず報酬も受けません、多くがそうなっています。本当のところそれにしても根本的な問題の解決にはなっておらず、その難を別の場所へ押しやっただけで、私たちのこの物質空間から押し出して、深層の物質空間へ押しやったのですが、最終的には戻ってくるのです。或いはそのものを転化させて、転化した結果病はなくなります、他の災難に遭わせるということもあります。多くの修煉方法は副意識の修煉です。その人に功があるとは見ないでください、その人自身に何の功があると言うのですか？ どんな形態ですか？ その功はどんな状態ですか？ どの様に出て来るのですか？ どの様に修煉してきたのですか？ その功はどこに存在するのですか？ 彼は全く分かっていません、ただ使えると言うことが分かっているだけで、本当のところ、それは副意識がやっていることで、副元神が修煉したのです。ですからそれを他の人の身体の上に移したり転化させたりできるのですが、勝手に転化させる訳にはいかず、ただ友人や近親だけです。ただしそれも交換条件があって、ただで病気の人にあげるわけにはいかず、代償が必要で、こういったその次元の理があります。

ここまで話しましたので皆さんに言うておきますが、一部の気功師がとても有名であると言う事で評価しないでください、それは全く人類社会を掻き乱しており、現在浄土はとても少ないのです。私たち常人社会での職場も皆同じです、その職場にも私たち人類社会や常人社会を破壊するものがあるのではありませんか？ いたるところに魔がいます。気功そのものはすなわち修煉で、これこそ浄土ではありませんか？ ある人は私たち法輪大法を破壊します、なぜでしょうか？ 名や利の為ならば得ることはありません。当然この魔が存在しなければそれも駄目です。この魔が存在しなければ、それも良く修煉するでしょうが、あなたもこの法輪大法で何の疑いもなければ

すぐ上に修めるでしょうし、それならとても簡単です。と言うのも人の心を離れて様々な方面で体現してくるのですが、特に私たち法輪大法のどこかの煉功点で、このような人が出現します、つまり自分が佛なのだから、李洪志に従って学ぶことはないなどと言うのです。なぜこのような現象があり得るのでしょうか？ すなわちあなたが根本から動揺せずにいられるか？ をみて修煉が最後の一步に至るまで、あなたのその心を試し、あなたが根本から法を認識しているか否か、定着しているか否かという問題です。様々な方面で向上し、全て確かめています。

ここまで話したので、皆さんに一つの問題を提出します。将来も世間の小道小法での治病は存在し得ます、それはその形式で存在するに過ぎません。それがどうやって治しているのかということは、私も説明しましたが、能力はとても小さいのです。小病は治せますが、大病は治せません。ただしごく個別に修煉していない人でも、個別にごく少数の人に対してならばいいのですが、広範囲にやれば社会を乱し、そんなことをさせるわけにはいかないのです。中には所謂、気功師が多くの人に教室を開いて病気治療を教え、気功医者になれるし、どんな病も全て治せると言っています。この話に従えば、人類には病気など無い事になるのですが、そんなことは出来ませんし、それが理というものです。ただし病を治せるのでしょうか？ 治せるとすればその状態で、そういった形式です、ですから私たち法輪大法は高い次元での功を伝える、本当の修煉です。

真の修煉は人を済度することに等しいのです。ですから私も皆さんにはっきり説明しますが、真の修煉法輪大法は、あなたに人の病気治療をさせる事は出来ません。もしあなたが本当に病気を治そうとするのであれば、この法を破壊し、この法を乱すものと見なします。ですから病気治療をしたいだけなら、私もそれほど貴重なものをあなたに渡して破壊、汚染させるわけにはいかないのです、私の法身が法輪や機制など全ての物を回収します。あなたは本当の修煉の人が、人に門を開いて病気治療などの事を行っているのを見た事がありますか。これまでも、修道の人でも、佛を修める和尚でも、病気治療をしてあげると言っていますか？ 薬で治病することはありますし、或いは極めて個別に機能を使って病を治すことも許されますがそれには条件がありますし、無条件でやるわけにはいきません。この事をはっきりと言えば、利害関係については既に皆さんに話しました、確実にあなたにとって傷害はとてもとても大きな事です。考えてみてください、一人の気功師が人の病を治すのに、何十年もの修煉を経てそういった機能を使える能力が得られるのです。おや、あなたが三日で病気を治せる、五日で病気を治せる、十日で病気を治せるというのは児戯に等しいではありませんか？ ちょっと考えてみれば分かる事ではありませんか？ あなたが三日で気功師になるなら、この「道」の修も簡単でこの地上の石ころのような物で、拾えば即

成佛です。この問題についてはこのくらいにしておきましょう、話さなければいけないことはとても多いのですから、講習会で十五、六時間かかってもできないものを全て皆さんに話そうとしているのですから。

修煉しようと思うのであれば、法を良く学んでください、私たち法輪大法の『轉法輪』も既に出版され、内容は全て私が講習会で説いた事で、全て含まれています。ですからこれこそ将来、私たちこの一門での修煉の拠り所にするものです。多くを語りません、簡単にと言いましたがこんなに話してしまいました。最後に皆さんがこの大法の修煉によって一日も早く功成って円満成就する事を願っています。

長春での説法 質疑応答

弟子：先生は、今は末法時期であるため、佛道神は常人の中のことに関わらないとおっしゃっていますが、では先生はなぜ関わっておられるのでしょうか？

師：私は常人の中の人だからです。他人が関わらないなら、私に関わらなければなりません。これは、私自身が行なわなければならないことです。しかし、頭に血が上って行なえば出来るものではありません。

弟子：私の夫はある気功を練っていますが、私が法輪大法を修煉していることに影響を与えるのでしょうか？

師：あなたはあなたのものを煉り、彼は彼のものを練ります。彼が大法を煉りたいのなら彼に教え、煉りたいと思わないなら、あなただけが煉ってください。恐れも執着であり、心が動じなければ問題ありません。

弟子：高い次元へ修煉したいという考えがなければ、病気を治し健康を保持する次元に留まるだけですが、先生にお尋ねいたします。私は圓滿成就できるのでしょうか？ 私は自分の良心に従って、常人社会の中で善人になりますが、死んでから元神はどこへ行くのでしょうか？

師：あなたは高い次元に向かって修煉したいという考えすら無いのなら、それでも圓滿成就できるのでしょうか？ 質問には「私は高い次元へ修煉したいという考えがない」と書いていますが、最初からこのように述べているので、それならあなたは どうして圓滿成就することが出来るのでしょうか？ 来世は何に転生するか分かりませんが、徳を積んで良いことに従事するかも知れません。良い事を行なって徳を積み、苦をなめれば、あなたの徳が多くなるでしょう。なぜならば、あなたは煉功しようとしないうし、功に転化させることもないので、次の一生は福の報いが得られるかも知れません。

弟子：学習者が周易を研究するのは、煉功に影響がありますか？

師：そういうものは私たちの銀河系の中の理にすぎず、これ以上大きな理ではありません。しかしながら、私たちの煉る法はさらに大きく、あなたが一生をかけて研究するのに十分です。

弟子：美容整形をしてから、鼻柱の中に「シリカゲル」というものを埋めたのですが？

師：影響はありません。「私は避妊しました」、あるいは「私は何々を摘出しました」と質問をする人がいますが、なんの影響もありません。あなたに教えますが、あなたの本当の体は摘出されていないので、通常通りに煉れば何でも修めることができます。

弟子：私が法輪を考えるたび、いつも身震いがしますが、これはなぜでしょうか？

師：もし憑き物がある場合、このような状況が現れます。私は講習会で、ほとんどは取り除いたのですが、ただ極めて少数の人に限って、考えがまだ変わっておらず、修煉の考えがまだ固まっていない人はまだ取り除いていません。取り除くときは深く調べていません。

弟子：昇進が運命の中であらかじめ定まっているのなら、人は努力する必要はなく、すべては運命の采配を待つだけでしょ

師：法は修煉者のために説かれています。今日私が常人のあなたにこのようなことだと話をしても、あなたは争うことをやめないでしょう。なぜなら、あなたは信じていないので常人だからです。常人はこのように信じません。さらに言えば、あなたが争い、戦うことも必然になっているのです。

弟子：煉功している間、私の体が勝手に揺れてしまうのですが？

師：揺れてはいけません。勝手に揺れないようにしてください。どうしても揺れるなら目を開けてください。そうすると揺れなくなります。揺れなくなるまで、そうしてください。

弟子：法輪大法を煉る時、特に第二式の法輪椿法を煉る時に、両手に気の塊を感じるのですが、意識的にコントロールしないと、この気の塊によって手が中のほうに引っ張られたり、または外の方に押されたりすることがあるのですが？

師：これこそ法輪が回転しているのです。あなたが感じたのは、法輪が回転するときの感覚なのです。

弟子：マントラを唱えながら煉功しても、影響ありますか？

師：呪文を唱えることはつまり、その法門の加持を求めることであると、私はお話ししました。あなたたちには、私の法輪と私の法身が見守っているのに、なぜそれを唱えるのでしょうか？ 二隻の船にまたがりたいのでしょうか？ あなたは別のものを混ぜ入れて修めたいのでしょうか？ つまりそのような意図ではありませんか？

そうするとあなたは何も得られません。

弟子：私はよく引越しをしますが、先生の法身が私の部屋を清めてくださるのでしょうか？

師：真の修煉者はどこへ行っても、きっと助けてくれるはずですが。引越しするとき部屋を清めてもらうためなら何も得られません。私はあなたの部屋を清めるためにやって来たのではありません。

弟子：光景が現れたときに功法の動きを収めると、功法を修煉することと、功が伸びることに影響はあるのでしょうか？

師：目の前に光景が見えたので煉功するのをやめることが、あなたの煉功にどのような影響があるか、ということですが、いかなる影響もありません。ただし、通常私たちの目の前に光景が現れたときは、できるだけそれを静かに観察し、その光景が過ぎ去るまで待ったほうが良いのです。現れてもそれを見ないと、あたかもあなたがそれを必要としないようです。そうなる则该の状態はそれを放棄していることとなります。ですからやはり見るようにしたほうが良いのです。しかしいかなる執着心も生じさせてはいけません。

弟子：結婚相手を探すことは、執着とみなされますか？

師：多くの若者は皆、結婚相手を探して、世帯を持たなければなりません。常人の中で修めるのはあなたを尼僧にさせるためではないので、これは問題ありません。私たちの法門は主としてあなたを常人の複雑な環境の中で修煉させていきます。

弟子：子供は講義を聞いた後、煉功を保つことができませんが、法輪はいつまでも彼を保護するのでしょうか？

師：煉功を保つことができなければだめでしょう。私は修煉者を済度しに来たのであって、常人を保護しに来たわけではありません。

弟子：私の体の上で法輪が回転する時、時には一回りするだけで方向が変わることがありますが、法輪が百回回ってから初めて逆回転すると感じる人もいますが、なぜでしょうか？

師：初期にあなたの体を調整している時は不規則だからです。それは霊体ですから、調整し終えるまで、どのようにあなたを調整するかを知っています。体の調整が終わって完全に適応してから、それは自然と時計回りの方向へ九回回転し、反時計回りの

方向に九回回転しますが、その時あなたはもう感じなくなります。いつまでも感じないというわけではありません。ご存知のように、皆さんの胃は蠕動していますが、あなたは胃が動いているのを自覚していますか？　それがあなたの体の一部分である時、それが順応するようになったとき、あなたはもはやその存在形式を感じなくなります。

弟子：先生が私たちに話してくださった法と天機を、煉功していない人に聞かせてもよろしいでしょうか？

師：普通の人に軽々しく高い次元の話をしてしないでください。してもその人は信じません。その人が信じるなら別に話してもかまいませんが、そうでなければ、信じない人はきっと法を破壊します。

弟子：煉功者は執着心を取り除いた状況の中で、努力して勝ち取り、最善の行動に尽力する状態を保ってもよろしいでしょうか？

師：今の段階で、人に完全に無為になるように放棄させることは現実的ではありません。あなたがいる現段階で、私があるあなたへの要求が厳しくなっても、あなたは常人の中でできる限り個人の利益のために努力することでしょう。原則的に問題にはなりません。しかしながら、少しずつ向上するにつれ、このような心はいずれも徐々に重く見ないようにしなければなりません。ただちに成し遂げることは、私に言わせれば現実的ではありません。さらに、「執着心を取り除き、努力して勝ち取ることを保つ」との質問ですが、保つこと自身は執着ではないでしょうか？　あなたの質問は矛盾しています。

弟子：師父の写真を用いて、すでに佛像、経文及び厨子をみな開眼させましたが、佛像の法身は師父の法身でしょうか？　線香をささげてもよろしいでしょうか？

師：原則的にこのようなことはしません。常人のことも関わりません。修煉者なのにあまり信じないのなら、将来はさらに困難になります。

弟子：煉功すると全身から汗が出るのですが、こういう現象は良いのですか？

師：それはもちろん良いことです。汗が出ること自体も良くないものを排出しているので、体が熱くなったことの現れです。人に病気があるときは体は冷たいものです。あなたがよく煉っている現れです。

弟子：高德の士は、多くの人が墮落したり、徳を損なったりしなければ、高い徳を

積むことができないのでしょうか？

師：高德の士は自ら大きな忍の心を持っており、その人は苦しみの中で苦しみに耐えられますが、これは他の人とどのような関係があるのでしょうか！？ その人がどれだけ高い次元まで修めるには、必ず他の人が徳を失わなければならないのかというと、そうではありません。修煉の過程の中で、人はこのようにあなたに業を償わせるためにやってくるのです。この環境を抜け出して修煉しないと避けられないのですが、そのときも別の方式で業を償わなければなりません。しかしながらそうなると、修めているのはあなたではなくなりますので、あなたがこの環境の中でそれを取り除けるように修めることは必然的なこととなります。人は必然的にあなたに面倒を引き起こします。あたかもあなたが常人の中で必ず業を作ることと同じことです。

弟子：一日に何回煉った方がよいのでしょうか？

師：時間があれば多く煉り、なければ少なく煉ります。何回でもかまいませんが、初期の頃はできるだけ多く煉る方がよいです。あなたが煉ることは機を強化していますが、本当に功を高めること、身体の変化、そして機能を強めることはいずれも私たちがあなたに植えつけた機制が役割を果たしています。あなたが煉っているのは機のエネルギーを強化するためです。

弟子：常人社会の中では、いつも様々な考えが生まれますが、様々な問題を考えることは、法輪を変形させることになるのでしょうか？

師：このときは変形することはありません。正常な仕事と日常的に頭を使うことは、修煉過程の中での正常なことです。あなたがいつも個人の利益を考え、どうすれば他人が自分に面倒を起こさないのかなどと考えていては、心が常人と同じならば、どのように向上するのでしょうか？ そのときはあなたの向上に影響します。

弟子：静坐しているときに耳鳴りがして、頭の中が真っ白になることがありますか？

師：これは良いことです。つまりあなたの雑念がすべてなくなったのです。とても良いことです。ただし、必ず自分が煉功していることを分かっている必要があります。

弟子：功が出る時は、主意識を主として修められるようになるのでしょうか？

師：そのように認識してはいけません。副意識も後に続いて煉功しているのです。

得ます。しかし将来、副意識はずっと副意識として存在します。あなたは永遠に主体です。

弟子：煉功するとき、昏迷状態になることがありますか？

師：昏迷状態になりそうなら目を開いて煉ってください。これ以上無意識に煉ってはいけません。

弟子：仰向けに寝ているときに、四つの法輪を抱く動作をしてもよいでしょうか？

師：このようにしてはいけません。私もこのように教えていません。このように煉功すると気持ちがよくて疲れないと感じる人がいますが、それではいけません。煉功するのにそれくらいの苦しみにも耐えられないのですか？

弟子：私は以前、座禅して煉功していたときに光景が現れましたが、無意識の内に封じ込めていると、それ以上現れなくなりました。

師：それを気にしないように、それに執着しないようにしてください。それは以前のことですから、これからは煉功してどんな状況が現れても成り行きにまかせます。執着しなければ、見えること自体は良いことです。

弟子：佛家の最も低い果位は何ですか？

師：佛家の最も低い果位は羅漢です。それより低いと果位はなく、正果は得られないので、三界から飛び出せないこととなります。

弟子：法輪大法を煉る者は、努力すれば佛体修煉に至ることができますか？

師：大法は果てがなく、佛法も果てがないので、あなたのその心を頼りとして修めていきます。出世間法まで修めたとき、直ちに佛体修煉が始まることとなります。

弟子：副意識と主意識は二人ではないのですか？

師：いずれもあなた一人です。同じ名前を持って、同時に胎盤から生まれますが、二つの意識となります。

弟子：私たちはどうやって、功を伝え、法を伝えるのですか？

師：法輪大法の学習者がどのように功を伝えるのかという問題については、私たちはすでに言及しました。あなたは教えることも伝えることもできます。正法を伝えることは、徳を積み、善事を行ない、人を済度することですから、あなたは伝えることが

できます。しかしあなたの言葉として話してはならず、先生がどのように言っているとか、私の本の中にはどのように書いてあるとか、このような方法に基づいて行なってください。自分のいかなる考え方を混ぜ合せても、自分に見えた光景を話したりしても、伝えるものはいずれも私たちの法輪大法ではありません！ あなた自身がその次元の中で認識した理は体系化された法ではありません。私たちは、非常に高い次元の中の理を話しているので、あなたのそれらのものには指導作用はありません。あなたが何を見て、何を知ったとしても、それにはこのような問題があります。さらに、私たちが法を伝える過程はいずれもボランティアとして善い事を行ない、功と徳を積むこととなります。煉功者として、あなたは何を求めますか？ 名誉や利益を求めない、そうではありませんか？ 私たちの求めるものは、功と徳なのです。ですから如何なる人からも費用を受け取ることは許可しません。如何なる人も私のこのような形を採って功を伝えてはいけません。座談会を開いたりして、みんなが煉功点で互いに交流し合って切磋琢磨することは大丈夫です。なぜなら、あなたにはこの法を説けないからです。私は教師だという人がいますが、それは関係のないことです。この法には極めて深い内包があり、異なる次元において異なる指導作用があるので、あなたが説くものがすべてではないのです。

鄭州での説法 質疑応答

弟子：よく動いて話しを聞こうとしない子供に対して、私は一日中、くどくど言ったり、殴ったり、罵ったりしているのですが、このようにするだけの価値があるのでしょうか？

師父：私たちが子供を教育する方法を改善したほうがよいと思います。子供を罵っても殴っても効果がないことに気付いたら、方法を改めるべきです。皆さんに教えますが、彼も一人の人間なのです。今彼らはあなたの息子や娘ですが、百年後には、互いに見知らぬ者同士ですが、あなたは返すべきものだけは償わなければなりません。私が言ったことを信じないかも知れませんが、常人の中で迷い、子供に無理やり大学を受験させたりして、こういうことに執着する学習者がいます。あなたに教えますが、あなたは彼に償うべきものがとても多くなります。将来は逆転して、彼があなたの父親になって、あなたにやられたことを今度仕返すこともあります。これは方法の問題ですが、もし子供を持っても教育しないなら、これもまた悪いことになるので、やはり彼に償わなければなりません。

弟子：化身や報身とは何ですか？

師父：これは佛教の中の名詞なので、あなたに教えません。私は人体科学と結びつけて話しているので、極めて分かりやすく説明しています。彼らは三魂七魄のあれこれについて教えていますが、漠然としすぎています。どの程度まで漠然としているのでしょうか？ あなたの心臓、肝臓、肺、腑、大脳、脳、すべての血管、細胞はみなあなたの姿かたちです。私は三魂七魄が何を意味するのか、彼らの言っていることが何なのか分かりません。あなたの前半身もあなたの姿かたちで、後半身もあなたの姿かたちで、あなたの手足もまたあなたの姿かたちですが、彼らの言っていることは何を指しているのでしょうか？ だからこそ私は、彼らの教えが漠然としていると言ったのです。私の説明は最もはっきりとしています。

弟子：私は神通加持法を煉っているときに、時々下腹部が起伏して動きます。以前他の気功を練っていた時の調息のようなものですか？

師父：そうです、そういう現象もあります。そのまま煉功して、気かけないでください。それはある種の状態なので、法輪大法を煉る初期の頃も自動的に調息するのです。

弟子：煉功した後、片方の手が熱くなり、もう片方の手は冷たくなるのですが、どういふことでしょうか？

師父：これは、いずれも正常な反応です。道家では陰陽分明などといい、こちらが熱くなるとあちらが冷たくなり、あちらが熱くなるとこちらが冷たくなることもあります。これはいずれも正常な状態で、様々な状態が現れてくるのです。

弟子：法輪大法を煉るとき、舌を上顎に付けることが要求されますが、口いっぱい入れ歯で、上顎が入れ歯に遮られているのですが、かまいませんか？

師父：関係ありません。入れ歯が鉄の歯でも関係ありません、鉛の板でも遮ることはできません。私たちが煉っているのはエネルギーだからです。北京で彼らが私を訪ねて実験した時ですが、何重もの鉛の板で遮って更に何重もの黒い紙で包んだレントゲンフィルムを手にとって、フィルムを焼いたらそこには、私の手の形が現れました。つまり、鉛の板でもエネルギーを遮ることができないのです。私たちが気を練っているのでなく、気を練るならばあれこれ恐れたりします。法輪功を煉ると風が怖くないかと言う人もいます。風速10の大風の中でもあなたは立っていられば煉ってください、何も失うものはありません。エネルギーは失われことはありません、気だけが失われるのです。

弟子：座禅する時は、足が痛まないと効果がないのですか？

師父：そうとは限りません。私たちの一門は特にこのようにして業を取り除いているわけではありません。私たちは常人社会の中であなたの心性を煉るのです。当然ですが、身体の面も少し苦を耐えなければなりません。この問題はすでに話したことがありますが、完全に禅定の修煉に頼るものではありません。

弟子：六才以下の子供が無意識のうちに法輪バッチの中の景觀が見えた後、天目が開くことがありますか？

師父：無意識のうちに見えたなら、開いても彼には分かりません。子供はよく天目が開いても気にしないので、ものが見えた時はみんな同じように見えると思うのです。子供はとても無邪気で、見えても気にしません。

弟子：私の子供は先生の法輪大法を学び、先生の考え方を受け入れています、よく煉功しません。法輪はそれでも存在しますか？

師父：よく煉功しないで、法輪大法の要求に基づいて行なっていないなら、それでも

私の考えを受け入れているといえますか？ 私は法輪をいい加減に常人に伝えることはしません。大人であろうと子供であろうと、法輪大法の基準に基づいて行なわなければなりません。でも子供は無邪気なので、一度学んだ後は表面的によく煉らなくても、心性は変化しています。彼の心に、法が既に根をおろしているからです。

弟子：今後、先生は講習会を行なわなかったら、私たちは師父に会うことができますか？

師父：もう講習会はしません。私はどこかの人影のない深山から出てきたわけではなく、山に入ることもしません。よく修めていれば毎日会うことができ、あなたには見えなくても私は側にいます。

弟子：私たちは乳白体状態を越えた時に、体感の機能がつきますか？

師父：以前話しましたが、それは機能ではありません。この講習会に来た大多数の人が、まだ体験していないうちにあの乳白体状態をすでに越えました。私は実際にはあなたを上へ引っ張って、また前へ押しています。この段階を越えるには、もしあなた自身で煉ると一生涯かかりますが、私は8日間であなたのためにやり遂げました。体験すらしていないうちに、その次元をすでに突破しました。

弟子：私は静功を煉る時、目を閉じると自分の経絡が運行する現象を見たのですが、これと法輪大法には不都合なことがありますか？

師父：あなたは天目が開いたから見たのです。これは正常なことです。

弟子：私と生まれたばかりの赤ちゃんと同じ部屋にいます。大法が出した法輪のエネルギーと私の体の気機は、生まれたばかりの赤ちゃんの天目に影響することはありますか？

師父：これらに執着しないでください。子供、赤ちゃんは成り行きにまかせておきましょう。得るべきものなら得て、得るべきでないものなら得るはずがありません。小さな子供の天目は、一般的にみな開いているものです。

弟子：私はもうすぐに香港に行きますが、先生の法身は弟子を保護してくれますか？

師父：あなたが香港に行こうとアメリカに行こうと月や太陽まで奔走しようと、私の法身はすべて保護することができます。ただし執着してはいけません。私の法身はあなたを修煉させるために保護しているのです。

弟子：昔から、仙人や佛を修めるには金丹大道の一本道しかないのですが、あなたの言うところの主元神とはどんな関係ですか？

師父：これはあなたが知っていることです。金丹大道の一本道や、昔から言い伝えたなにかなど、それは常人の言うことです。天上では誰もが私の法輪大法が最も素晴らしい法であると知っています。もちろん他にもまだ修める法はありますが、あまりにも奥が深すぎて、人に理解できるはずがあるのでしょうか？

弟子：どのセットの功を煉っても、頭の中に多くの気血が交流している感じがしますが、それは法輪が回っているのか、それとも法輪が脳を調整してくれているのですか？

師父：煉功者の身体に現れる様々な状態は何千何万という数なので、数えても数えきれず、これらのことを一つ一つ話すことはできないばかりか、話しきれません。煉功をしたいならそれを良い現象と見て、それを気にかけてはいけません。今日のこの状態や、明日のあの状態を、ただ良い事と見なして、それはすべてあなたの身体を調整してくれています。あなたのその不安定な心理とは何でしょうか？ 執着ではありませんか？ 恐れる心理がそんなに強いなら煉功することができますか？ あなたは突破することができますか？ これは既にあなた自身が設けた難ではないでしょうか？ 生じた執着心をどうやって取り除くのですか？ このような状態の中で、その心を取り除かせているのかも知れません。

弟子：座禅する中の五つの手印に名称はありますか？

師父：動作の中の手印には決まった名称はありません。

弟子：大蓮花手印は手印の一つですか、それとも五つの手印の総称ですか？

師父：大蓮花手印は一つの固定の手印にすぎません。

弟子：あなたの功力は今どれくらい高いのですか？ あなたの講義内容は身をもって経験したことですか？

師父：私が経験した事はあまりにも多すぎます。私は一丈、十丈、百丈あっても、一寸たりとも話すことはありません。みなさんが余り多く知ることが許されないのです。真の師父は自分で吹聴することはないからです。私がここで伝えているのはこの法なので、この法の通りに行なってください。しかし更に教えますが、本当にこの法を修煉する人に問題が起こることはないのです、ひたすら修めてください。以前、私は貴州の講習会で一言言いました。皆私に「先生はどれくらい高いのですか？」と聞きまし

た。私は、「あなたはひたすら煉ってください。私が出山してからも、出山する前も、私を動かすことのできる人はいません」と言いました。この一言で、現地の三百歳余りの人が、私と法術比べをしました。というのも、彼のその嫉妬心からです。その後、彼はお終いになりました。彼は三百歳余り修めたとしても、この大法を伝え出したことは冗談事ではありません、誰でもこの法を触ったりしようと思えば駄目です。彼は私が人を済度していることを最後に知りましたが、既に遅かったのです。法は彼を許しませんでした。

弟子：座禅して煉功する時に、自分が大きくなったり、小さくなったりすると感じるのですが？

師父：これはどちらも良いことです。煉功すると、その人の元神は彼にエネルギーを補充することができ、彼には変化が起きるのです。拡張すれば自分が大きくなったと感じますが、その肉体は全く変化が起こっておらず、変化するのは別の身体で、自分は非常に大きいと感じるのです。ところが彼はまた縮小することもでき、とても小さくなります。実はいずれも正常なことです。私はこういった現象を解釈したいと思いません。色々な状態が多くて、何千何万にも留まらないのです。

弟子：神通を加持する時、全身がぞくぞくと身震いしたり、あるいは部分的に身震いするのですが、煉功を続けてもいいのでしょうか？

師父：もし震え方がぶるぶる震えて怖いような時には、何かの憑依するものが怖がっているのかも知れません。もし、正常な身体が落ち着いていて震えるなら、エネルギー流が脈を突破しているのかも知れませんが、その震えに従ってはいけません。

弟子：以前、二人の人が古い学習者について法輪大法を二ヵ月学びました。今は神通加持法を煉るときに気を感じがし、それに伴って様々な動作が現れるのですが？

師父：それこそ魔の妨害です。今すぐ自発的な動作を放棄してください！ 入静する中、法輪大法でない動作が現れたなら、もちろん私が言うのは本当に法輪大法を修煉する人ですが、あなたに法輪大法でない動作が現れたならすぐにそれを放棄して下さい！ 皆さんは私が大手印を打つのを見て、学びたいと思ったり、真似したり、自分も手印を出したと思ったりする人までいます。お教えしますが、それこそ魔があなたを妨害しているかも知れません。私の法身は決してあなたにこういうことを教えたりしません。特に別の功を混ぜて練る人にこの状況が現れると、きっと妨害されているに違いありません。

弟子：講習会に行ってしばらくしてから、片方の耳に大きな音がし、もう片方の耳から気が外へ突き出てきました。その後、寝ている時に音楽が聞こえたのですが？

師父：それは天の耳が開かれました、つまり天耳通といいます。

弟子：主元神と副元神はどちらも身体の一部ですが、主元神がいずれ死ぬことになるので、副元神に修煉を成就させてもよいのですか？

師父：いいですよ。歴代の人はずっとこのように修めていたのです。ただ、あなたは私の法輪大法を煉らずに、別のものを煉ってください、あなたが法輪大法を煉っても得ることはできません。なぜなら私の功法は主元神だけに与えるものだからです。誰が主元神は死ぬと言ったのでしょうか？ 主元神は死ぬことはありません。でも私に言わせればあなたは本当に度量の大きな人で、自分が死んで副元神に修めさせます。私が思うには、これは憑依されている人が書いた質問です。

弟子：古い学習者の話によれば、全身を至るところに法輪が回っているそうです。私は下腹部に一つ感じるだけですが、私もそんなに多く持つことができるのでしょうか？

師父：あなたはけっこう執着していますね。法輪が多いのは私が彼らの身体を調整しているからで、あなたたちに与える法輪はただ一つです。しかし、あなたたちはすでに相当超常です。皆さんには、皆さんが法を聞いているのが見えますが、あなたたちには見えないたくさんの人々もここで法を聞いています。教えますが、彼らも初めはみな大法の威力や、私たちの功はどうしてこんなに煉るのが速いのか信じませんでした。学習者は私と一緒に汽車に乗っていたとき、山から来た修道者たちが彼らを見た後、とても不思議に思いました。その人たちは私に「これらの学習者はどれくらいの期間学んでいましたか？」と聞きました。私は、「半年学んでいた学習者もいれば、一年学んでいた学習者もいます」と答えました。私は「あなたたちと比べてどうですか？」とも言いました。彼らは「私たちの中で、彼らに追いつける人はほとんどいない」と答えました。ところが、彼らはなんと数百年、千年にも及んで修めています。あなたは、私があなたに何を与えたと思いますか？ そこに座っていると泣きたくなくなると言う人がいますが、あなたは泣かないはずがあるのでしょうか？

弟子：神通加持を煉って双盤を組んでいるとき、初めから足がとても痛いのですが、いつまで修めると痛まなくなりますか？

師父：あなたの業が無くなるまで修めると、痛くなくなります。

弟子：師父が植え付けてくれた法輪を下腹部で感じられません。講習会に何度も参加しなければ、ちゃんと植え付けられないのでしょうか？

師父：全く感じない人もいれば、特に敏感な人もいて、同じではないだけです。感じるにしても感じないにしても、本当に法輪大法を修煉する人でさえすれば、誰にも法輪を植え付けてあげます。あなたの認識は間違っています。独学する人でも本当に修煉したら得ることができるので、ちゃんと植え付けたかどうかという認識も存在しません。

弟子：講習会に一度だけ参加した学習者と、何度も参加した学習者が得るものは同じでしょうか？

師父：同じです、誰かに何かを多く与えたりはしません。私たちの多くの学習者は何度も何度も講習会について来ますが、物を得るために来るのではありません。私が話すたびに彼らにも新しい認識を得て、彼らは法を学び、法を聞きに来ているのです。この法が貴重だと知っているのです、物を得に来るのではありません。講習会に一回付いて来れば少し得て、また一回付いて来ればもう少し得られると思っていますか？冗談ですが、あなたのこのような考えは貪欲です。

弟子：子供の天目が開いたなら、どのように守りますか？

師父：私たち法輪大法の学習者や幼い学習者、または学習者の子供も、法輪を得たり天目が開いたりすると、修煉していない人にむやみに話してはならず、学校の友だちや先生にさえむやみに話してはなりません。そうでないと、子供はそれから安らかにできません。

弟子：このような世界に留まる人は、精神に少しも痕跡を残さずに、最初の玉のような純潔さを取り戻すことができますか？

師父：できます。そればかりでなく、初めのあなたを超えることもできます。もちろん、あなたが常人の中でそのような純潔さを一挙に修めようと思うなら、自分だけの力ではまだ無理です。最後のその一瞬の時、あなたに残っている如何なるものも、良くない物質を全て取り除いてあげます。あの情は物質的に存在しているもので、あなたはそれを自分で修めていかなければならず、思想の面から自分を変え、それを二度と生じさせないようにします。最後にほんの少し残ったものを、あなたのために取り除いてあげます。その時あなたは純粋なものだけになり、非常に純粋になります。修めるということは人の思想を修めることで、思想の面から変わって来ることであり、あなたの思想が純粋になった分だけ、それがすなわち果位なのです。圓滿した後、あ

あなたの思想も完全に円満した次元の思考方式になり、人間の思考方式は二度とありません。

弟子：主元神は最後にどの身体に入りますか？ 別の身体はどのような状態にありますか？

師父：主元神はどの身体に入るかということですか？ あなたが修めたその身体は全てあなたのものです。他の空間の身体はもともと一体で、全てあなたと一体になっています。あなたの肉体が高エネルギー物質に転化された後、もはや他の空間の身体とは言わなくなります。

弟子：少林寺の大雄宝殿に入ったとたん、下腹部の法輪が急速に逆回転したのですが？

師父：右回りや左回りはどちらも正常なことです。とても良いところでとても素晴らしい寺院です。もちろん今ここで修煉する僧侶がどうであるかは言いません。私が言うのは、寺院はとても良い寺院です。

弟子：両側抱輪をする時、いつも耳鳴りが起こるのですが？

師父：そうです。両側抱輪は人の耳を開くことができます。「それは素晴らしい、私は毎日これだけを煉ろう」と思う人がいます。これは執着心です！ 私は新しい学習者にはこういったことを話したくありません。こういうものに対して最も執着しやすく、執着するときと妨害されます。

弟子：私は法輪大法を修煉する前、夢の中で自分が天に昇り、空を飛んでいるのが見え、地に潜り込むのも見えましたが、それは私の副元神でしょうか？

師父：違います。もしあなたの意識が天を飛んでいるなら、あなたの主元神が体を離れたのです。あなたの意識があるところにあなた自身もいます。自分が天を飛んでいるのが見えて、しかし自分はここに坐っているなら、それはつまり副元神が飛んでいるのです。

弟子：私は静功を煉って三十分後、その時全身が張って力がこもり、それから体が縮んで懸命に煉功するのですが、これはどういうことでしょうか？

師父：気にかけてください。あなたの以前の生命体と関係があります。気にする必要はなく、ひたすら煉ればよいのです。

弟子：溶接工は仕事をする時、塵やアークライトと接触しますが、それらは体に影響しますか？

師父：煉功者に対して影響ありません。

弟子：第一日目に煉功すると、丸い形のものが外から腹に入り、それからゆっくりとへそのところまで降りました。お尋ね致しますが、先生が植え付けてくださった法輪でしょうか？

師父：煉功者はこういったことを気につけないでください。様々な状態を私は解釈するほどでなく、執着心を増やしてもいけません。

弟子：私はある気功師のカレンダーと本を買いました。先生の写真と一緒に部屋に掛けて見ることはできますか？

師父：出来ません。修めるなら専一でなければなりません。たとえ本当の気功師や良い気功師であっても、教えますが、彼には邪なものを排除する能力はなく、それらに折り合わなければならず、一部の功の中にそのようなものを帯びることになります。彼自身は正道を修めていても、どうしようもないので、彼が伝え出したものを管理することができません。

弟子：長期間、船上で仕事をしている人が法輪大法を修煉して、同じような結果に達することができますか？

師父：同じです。海上で煉功するのも、大きな川で煉功するのも同じことです。

弟子：煉功者の食事は適当にして腹を満たして、力が出せばよいのですか？

師父：適当に食べますか？ 適当に食べてもやはり腹を膨らみましたね。ご飯だけで腹が膨れるのですか？ それを少し残しておいてどうするのですか？ もし困難な時であれば、少なめに食べてもかまいません。あなたの身体はまだ世間法で煉っているので、世間法の中のもので栄養を供給する必要があります。そうでなければ、この身体は終わってしまうのではありませんか？ あなたが高エネルギー物質に取って代わられる前に、食事をしなくても大丈夫ですか？ 美味しいものを食べても、心に執着がなければ問題ありません。

弟子：法輪大法を学ぶ人は、小動物を飼っても良いのですか？

師父：佛家は殺さず飼わず、を重んじていますが、道家もこのように重んじているかも知れません。道家にも一部霊的なもの、亀などを飼ったりします。極めて高い次元

で一匹二匹を飼って護法に使いますが、最も良いものを選ばなければなりません。あなたが煉功して次元が向上するに従って、それらの動物は簡単に靈氣を得ることができます。靈氣を得ても心性を重んじないので、悪事をなしてきつと魔になります。

弟子：私は夜に一人で目をつぶって煉功する時、周りが静かなのが分かれると、とても怖く感じます。

師父：皆さんにお話ししますが、現在は、どの空間でも法輪大法を知っています。法輪大法が常人社会で伝わり、多くの得体の知れない様々な空間のものも見てみたいと思っています。それらは奇妙な格好に成長しているため、どんなものもあります。あなたがそこで煉功しているとそれらが会いに来たら、あなたは怖い感じがしてぞっとします。しかし私の法身がいるので、誰もあなたを傷つけることができないことを覚えておいてください。それらがただ見たいと思っているだけなのです。なぜぞっとするのでしょうか？ あなたの副元神が見たからこそ、とても怖い感じがしたのです。実際にはどんな問題もありません。

弟子：法輪世界とはどのようなところですか？

師父：あなたは極楽世界があるのを聞いたことはありませんか？ 法輪世界はよりいっそう美しいのです。

弟子：もし自分の肉親の間で業を償う関係があると知ったなら、どのように付き合うのですか？ どのように報いを償うのですか？ どのように恩に報いるのですか？

師父：いずれにしてもあなたが知ることはありません。常人のこういったことを人に知られることも許されないのです。修煉者が円満してはじめて知ることができます。その時、あなたはすでにそれらに執着しません。人にはそれぞれ天命というものがあるので、縁に従いましょう。

弟子：身体障害者にはどのように心を配って世話をしますか？

師父：常人の中のことを私に聞いてどうするのですか？ あなたの両親を、あなたの子供をどのように世話するかも私に聞くのですか？ 全て常人の中のことです。私は法を説き、高い次元へ修煉していくことを説いています。ただし身体障害者としてあまりにも楽をしすぎるなら、業を償いきれないので、来世もまた不具の疾病になることがあります。

弟子：上司の指示が誤っている場合、どのように対応したらいいのでしょうか？

師父：これも全て常人の中のことです。煉功者としてどうするかは、法の要求に基づいて行なうべきです。どのようなことにも因縁関係が存在しています。あなたは誤っていると思っていますが、本当は正しいかも知れません。その人は上司なので、あなたにどうしろうと言ったら、あなたはその通りにやり遂げれば良いのです。もちろん、あなたに殺人や放火など、悪い事をさせようとしても、当然あなたはやりません。原則的な問題は駄目ですが、私たちが重んじる原則的な問題の基準は、決して同じではありません。

弟子：煉功者がたまたま間違っただけの事をしてしまいました。先生の法身は知っていますか？ その人を懲罰するのでしょうか？

師父：もちろん知っていますでしょう。もしあなたが良く修めていれば、その場できつと啓示を示して現世で報いを受けさせ、誤った事をして生じた業を償わせてしまうはずですが、もし、あなたが良く修めていなければ、処罰しないかもしれません。いつもそのような状態で、いつも現世で報いを受けさせ、誤ったことをする度に受けさせ、また誤ったことをすればまた受けさせる、そのようにも出来ません。このようにしてあなたの悟性を高めるなんて、とんでもありません。それにこのようにすることは許されません。

弟子：どうすれば、あなたの法輪と法身が私にはっきり見せてくれるのでしょうか？

師父：あなたは更に何を見たいのでしょうか？！ それは常人に見せるものですか？！ あなたはこんなに良くない執着心を発していますが、佛が見える人はすでに果位のある人なのです。これは煉功者が持ち出すような質問でしょうか？ 全て見えるなら悟りも存在しなくなり、修めることも許されなくなりますが、あなたが修められなくなるだけでなく、これほど多くの人までも台無しにさせたいのですか？

弟子：神通加持法を煉っている時に、時々頭が動くのですが？

師父：動いてはいけません。絶対に動いてはいけません。のびのびとリラックスしてください。

弟子：私たちの煉功場によく木の葉を焼いて煙がゆらゆら立ち上っているのですが、煉功を中止した方がよいのですか？

師父：公園の中の木の葉を集めて焼いても煉功には影響しません。煙でよく咳き込むなら、場所を変えてもよいのです。他には問題無いと思います。

弟子：日用品を壊すのは、業を造ると同時に徳も損なうのか、それとも業を造るだけで徳は損なわないのでしょうか？

師父：釈迦牟尼は万物にはみな霊があると言ったことがあります。実は他の空間でどのようなものも皆生きています。もし、あなたの天目が法眼通に達したなら、ドアを開いて外に出ると、きっと石や壁さえあなたに挨拶して、話かけてくるのが見えます。ただ皆さんに教えますが、大局に着眼して堂々と修煉し、こういった小さな事に執着しないでください、人には人の存在形式があります。本当に大法を修める人は、一日のうちにとっても多くの業を消去することができます。それゆえに業力は大法を修める人にとっては、それほど心配することではありません。

弟子：単手衝灌をする時、肩が手について一緒に上下に動いて、体全体も動いてしまう人がいますが？

師父：それは正しくありません。肩と体は力を抜いて動いたりしません。

弟子：家族が憑き物の功を練っています。忠告しても受け入れないのですが、どうしたらいいのでしょうか？

師父：成り行きに任せてください。あなたが誰かの考えを主宰しようと思っても主宰しきれません、できるのはただ善を勧めるだけです。せいぜいのところ善を勧めることしかできないので、耳を傾けてくれなければそれまでです。師父は真に修める弟子のために環境をきれいに整理してあげます。それらの乱れに乱れたものが弟子の家に入ることを許しません。

弟子：友人から贈り物をもらうのは良いのでしょうか？

師父：友人から贈り物をもらうというなら関係ありません。二人が仲良く、物を贈るのは自らの意識によるものでかまいません。

弟子：心の中で人を罵ったり、自分を罵ったりしても徳を失うのですか？

師父：自分を罵ったなら、誰に徳を失わせるのですか？ あなた自身に徳を失わせるのですか？ しかし、煉功者たるもの、人を罵ってはいけません。自分を罵っても、腹を立てることなので、我慢できなかったこととなります。そうではありませんか？ 私たちは我慢することを重んじています。小さな子供や自分の子供に対しても、心まかせにぶったり罵ったりすべきではありません。子供を躰けることは問題がないので、子供を教育しなければいけません。しかし、躰けるには方法を講じますので、子供を躰けるために自分が怒ってはいけません。本当に怒ってはいけません。

弟子：五、六歳の子供が私について煉功しているのですが、法を知らなくても上へ修められますか？

師父：それなら子供にどのように良い人になるかを話してみます。物語を語るように先生がどのように言ったと話したらいいです。教えておきますが、一部の子供はこの場で聞いてとてもよく理解できています。子供はあなたほど理解できていないとは思わないでください。

弟子：私たち修煉者は、更に佛教や道教の本の中から、物事をくみ取ることができま

師父：絶対にやってはいけません、絶対に駄目です！ そうすれば、ひと揃いのものが乱れてしまうのではありませんか？ 法門を混ぜることになるのではありませんか？ 不二法門を講じるべきです。もちろんあなたが法輪大法を煉るのでなく、法輪大法という法によって、その他の功を指導してもらおうと思うなら問題ありません。当然、私が伝え出したこの法はあらゆる功にも指導作用があるので、あらゆる功もその通りに心性の修煉を重視していかなければなりません。

弟子：法輪大法の理を学んでからは、どのような心理状態で生活すればよいでしょうか？

師父：様々な文化スポーツ活動や常人の中の事にあなたが参加したければ参加しても、功に影響はありません。煉功するにつれて絶えず高まった時、こういった事をあなたはあっさりと考えるようになります。より高い次元まで修煉した時これらもやはり執着だからです。しかし、今あなたに一気に放棄させようとしません。全て放棄したなら、今日にでもあなたは佛になってしまうので、今はあなたも一気に放棄することができません。人は、情があるからこそ常人の愛好があるのです。

弟子：私が煉功する時、法輪大法の音楽の中から同時に規則的な鈴の音が聞こえました。これは何でしょうか？ それは副意識が作用を及ぼしているのですか？

師父：そうではありません。他の空間からの音声です。このような現象は多くあるので、気にしないでください。

弟子：煉功する時に観想を加える事はできますか？ または一脈が百脈を率いることで入静を促進することをしてよいですか？

師父：意念はありません。私たちは直接高い次元で修煉するので、できるだけ有為の

意念を全て放棄します。それなのにあなたはどんなものを加えようとするのですか？
でたらめです。あなたに私たちの一揃いのものを混乱させるわけにはいきません。あ
なたが加えれば、法輪は変形するに違いありません。私たちは百脈が同時に通じると
言っているので、一脈が百脈を率いるということをやしません。

弟子：世の人が修煉する目的は、ただ自分が覚者になるためで他人のことを考えませ
ん。それではどういう人になるのでしょうか？

師父：佛は人を済度できますが、佛は人を済度するために生まれたものではありません。
あなたが佛なら、あなたを済度すべきだと思いますか？ 自身の解脱を達成し、羅漢
はこのようにして修めて成就したのです。もし、あなたに衆生を普く済度しようとする
願望があるなら、さらに続けて上へ修め、その次元に達してこそ、はじめて世の人
を教化して済度することを悟れるのです。教化して済度することに触れましたが、ど
のように教化して済度するのでしょうか？ あなたもただ私と同じように、このよう
に話してこのように行なうだけです。誰かの難をもみ消して上へ持って行ってあげる
なんて、その時になればあなたは分かりますが、彼を上へ持って行ってあげられない
うちに、あなた自身がまず堕ちてしまいます。絶対に許さないことです。また、修煉
すれば他人のことを考えないといけないこともありません、すべて執着です。

弟子：先生は海外に行って講義をされる時、外国人にも法輪を植え付けているので
しょうか？

師父：真に修めるなら誰にでも植え付けてあげます。大法は宇宙のものであり、全世
界の縁ある人が全て学ぶことも得ることも出来ます。

弟子：中国伝統医学の医師は、針灸で病気を治療することが出来ますか？

師父：もちろん出来ます。それは常人の中の仕事です。

弟子：講習会に参加する人は全て法輪を植え付けていただけるのでしょうか？

師父：いいえ、ここで学んでいるごく一部の人は、法輪大法を信じていないです。そ
れから疑いを抱いている人もいます。それに聞いているうちは良いと思いますが、結
局修煉できない人もいます。

弟子：法輪は先生の法身によって回収された後、また新たに先生の要求に基づいて行
なえば、法輪をもう一度与えてくださるのでしょうか？

師父：そうだとすれば、本当に決心して行なって、初めから学ぶ人のようにしなけれ

ばなりません。

弟子：あなたの法輪を借りて学習者の病気を調整してあげられる、あなたの病気も検査できるという学習者がいますが。

師父：それは魔の心による発言で、絶対に信じないでください！ そのように言う人は、絶対に法輪大法の弟子ではないばかりか、深刻に大法を破壊しています。わたしは今まで病気とは何かを味わったこともありません、私の病気を検査するという人は、まずあなたが私の場に入って来られるかが問題です。

弟子：無為についてどのように理解すべきですか？

師父：心性を守り、やたらと有為のことは行なってはならないことです。殺人や放火を見かけたらやはり関わらないとだめで、それは心性の問題です。

弟子：煉功場である人が私に話しかけたように、私も心の中でその人と話をしたのですか？

師父：功が開くと修煉して修めにくくなると私は言いましたが、つまりこれが原因なのです。誰かに話かけられて、または何らかのものが見えたなら、次第に嬉しくなって自分を把握できなくなります。彼はすぐにその人とコミュニケーションを取りますが、その人が魔であるかどうか分かりません。その人がたとえ魔でなくても正法修煉の覚者ではありません。その人がたとえ天上から来て邪なものではないにしても、正果を得ている人ではありません。さもないと彼は正法を修める人を妨害するはずはありません。考えてみてください、その人のものを受け入れた時、あなたはまだ修煉できるのでしょうか？ あなたのものは乱れていませんか？ あなたに執着心が現れていませんか？ 人に機能が出ても制御しにくく、功が開いても修めにくいのは、つまりこういう原因です。とても難しいことです！ いったいどれくらいの方が修煉してこられるかは、私も天上も見ているのです。